

### 第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）



## 1 調査結果の要点（50～74歳調査）

### （1）地域に対する関心・課題認識

#### ア 「地域」の範囲

町内会・自治会の範囲」が47.9%で最も高く、次いで「お住まいの区内」（26.7%）となっている【P63 図8-1参照】。

#### イ 地域の課題

「住民同士の関係が薄れている」（34.5%）と「自然災害に対する備えに不安がある」（32.9%）が、いずれも3割以上を占めている。次いで、「高齢者を地域で支える仕組みが不十分」（25.7%）、「治安や防犯、交通安全に不安がある」（23.5%）、「住民同士が交流する場や機会がない（不足している）」（17.9%）となっている【P64 図8-3参照】。

#### ウ 課題解決に有効な取組、自身ができること、負担できる時間

課題解決に有効な取組は、「地域住民と行政との協力・連携」が42.2%で最も高く、次いで「行政からの支援」（34.8%）、「地域住民の意識の向上」（32.5%）、「住民同士の交流の活性化」（31.4%）となっている【P67 図8-7参照】。自身ができることは、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が45.4%で最も高く、次いで「ボランティア活動に参加する」（34.8%）となっている【P69 図8-9参照】。負担できる時間は、「年25時間未満」が27.4%で最も高く、「負担できる」とした人の合計では、55.4%となっている【P69 図8-10参照】。

### （2）社会活動・地域活動への参加の状況や認識

#### ア 情報の入手先

「市政だより」が78.7%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板、掲示板」（67.2%）、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」（34.3%）となっている【P71 図9-1参照】。

#### イ 社会活動・地域活動への参加経験、参加したきっかけ

参加経験は、「参加したことがある」が65.1%なのに対し、「参加したことはない」は33.8%となっている【P72 図9-2参照】。また、参加したきっかけは、「役員（当番）が回ってきたから」が61.8%で最も高く、次いで「友人・知人の誘いがあったから」（30.2%）、「必要性を感じたから」（28.3%）となっている【P73 図9-5参照】。

#### ウ 社会活動・地域活動への参加状況、参加しない理由

「参加している」が27.2%なのに対し、「参加していない」が70.5%を占めている【P74 図9-7参照】。また、参加しない理由は、「時間がないから」（44.7%）、「きっかけがないから」（43.9%）がそれぞれ4割台半ばとなっている【P76 図9-11参照】。

#### エ 参加している社会活動・地域活動とその継続年数

「町内会・自治会活動」が59.7%で最も高く、次いで「ボランティア活動」（34.7%）となっている【P77 図9-13参照】。また、その継続年数は、「3年以上」が59.7%で最も高くなっている【P77 図9-14参照】。

#### オ 参加による対価の取得状況

参加によって「対価を得ていない」人が継続参加者の82.4%を占めている。「対価を得ている」場合の対価の金額は、活動「1回当たり500円未満」が38.5%となっている【P78 図9-15参照】。

#### カ 社会活動・地域活動への関心度・関心のある活動、参加したい活動分野

関心度は、「どちらともいえない」が35.4%で最も高い。一方、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた「関心がある」人の計は40.2%を占めている【P78 図9-16参照】。また、関心のある社会活動・地域活動は、「ボランティア活動」が53.5%で最も高く、次いで「町内会・自治会活動」（48.5%）となっている【P79 図9-18参照】。参加したい分野は、「地域安全」が30.9%で最も高く、次いで「まちづくりの推進」（26.7%）、「災害救援（防災など）」（26.1%）、「保健、医療又は福祉の増進」（25.3%）、「環境の保全」（22.7%）、「子どもの健全育成」（21.2%）となっている【P81 図9-22参照】。

### 第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

キ どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

「交通費+昼食代」が36.2%で最も高く、次いで「交通費程度」(29.4%)、「対価はいらないが参加したい」(18.4%)となっている【P82 図9-24参照】。

ク 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所

「町内会館・自治会館」が48.8%で最も高く、次いで「市民館・区役所」(39.3%)、「集合住宅の集会スペース」(20.6%)となっている【P87 図9-33参照】。

ケ 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目

「活動場所の確保」が61.7%で最も高く、次いで「活動費の助成」(57.8%)、「情報提供の充実」(51.8%)、「人材育成・確保」(36.0%)となっている。なお、平成16年度調査(P63参照)と比較すると、聴取の対象者が異なるものの、順位は変わらず、上位3項目については14ポイント以上上昇している【P90 図9-37参照】。

#### (3) NPO法人などの市民活動団体への認識

ア 市民活動団体の活動についての印象

「活動の内容がよく分からない」が49.5%で最も高く、次いで「意識が高い人たちが活動している」(34.6%)となっている【P92 図10-1参照】。

#### (4) 寄付などによる団体の活動の支援

ア 行った経験のある支援、今後行いたい支援

「街頭などでの募金活動」が37.9%で最も高く、次いで「団体への会費の支払」(28.9%)となっている【P93 図11-1参照】。また、今後行いたい支援は、「街頭などでの募金活動」が25.0%で最も高く、次いで「寄付付き商品の購入」(22.4%)、「団体が必要としている物の提供」(22.4%)、「団体への会費の支払」(21.2%)となっている【P95 図11-3参照】。

#### (5) 仕事

ア 就業状況、就労時間

就業状況は、「就業している」が58.7%を占め、「就業していない」は36.9%となっている。平成16年度調査(P63参照)と比較すると、就業率は16ポイント上昇している【P96 図12-1参照】。また、就労時間は、「週に40時間以上」が45.8%で最も高い。平成16年度調査(P63参照)と比較すると、「週に20時間未満」が5ポイント上昇している【P98 図12-6参照】。

#### (6) 余暇・自由時間・趣味などに関する考え方

ア 活動参加における重視項目

「興味、関心」(51.1%)、「社会への貢献」(48.4%)、「適性、経験」(47.1%)がそれぞれ5割前後となっているほか、「活動地域」(33.0%)、「健康の維持」(31.7%)も3割を超えている。なお、平成16年度調査(P63参照)と比較すると、聴取の対象者が異なるものの、「興味、関心」(今年度：1位、平成16年度：3位)、「社会への貢献」(今年度：2位、平成16年度：1位)が上位で共通している【P105 図13-3参照】。

## 2 回答者の属性（50～74歳調査）

### （1）居住区

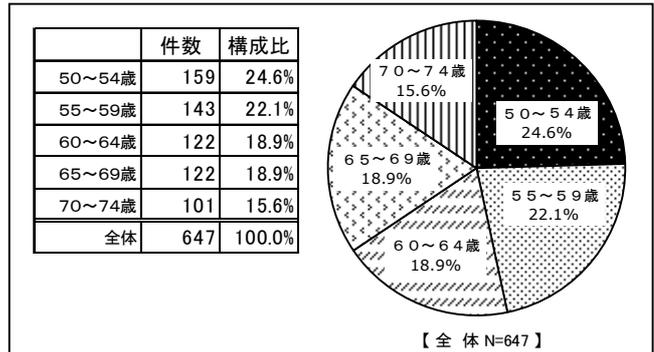
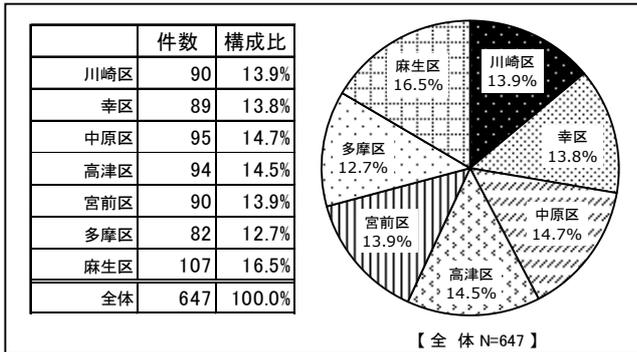
回答者の居住区は、「麻生区」（16.5%）が最も高く、次いで「中原区」（14.7%）、「高津区」（14.5%）、「川崎区」（13.9%）、「宮前区」（13.9%）、「幸区」（13.8%）、「多摩区」（12.7%）となっている。

### （2）年齢

回答者の年齢は、「50～54歳」が24.6%で最も高く、次いで「55～59歳」（22.1%）、「60～64歳」（18.9%）、「65～69歳」が18.9%、「70～74歳」が15.6%となっている。

図7-1 居住区

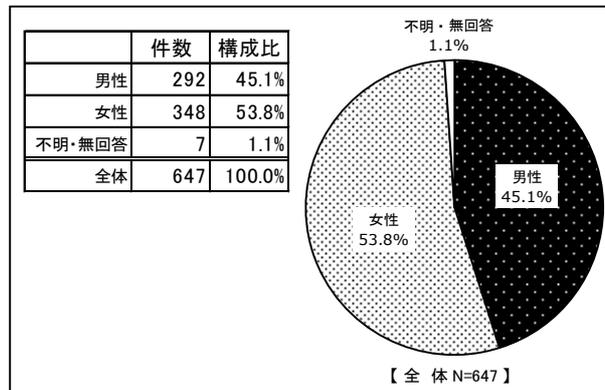
図7-2 年齢



### （3）性別

回答者の性別は、「男性」が45.1%、「女性」が53.8%となっている。

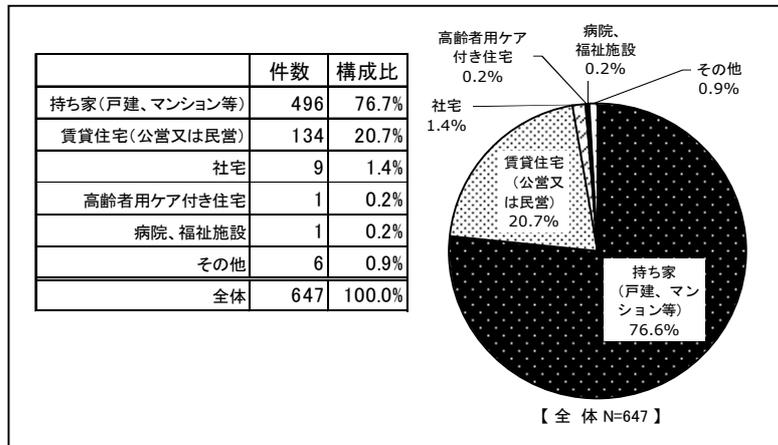
図7-3 性別



（4）住居形態

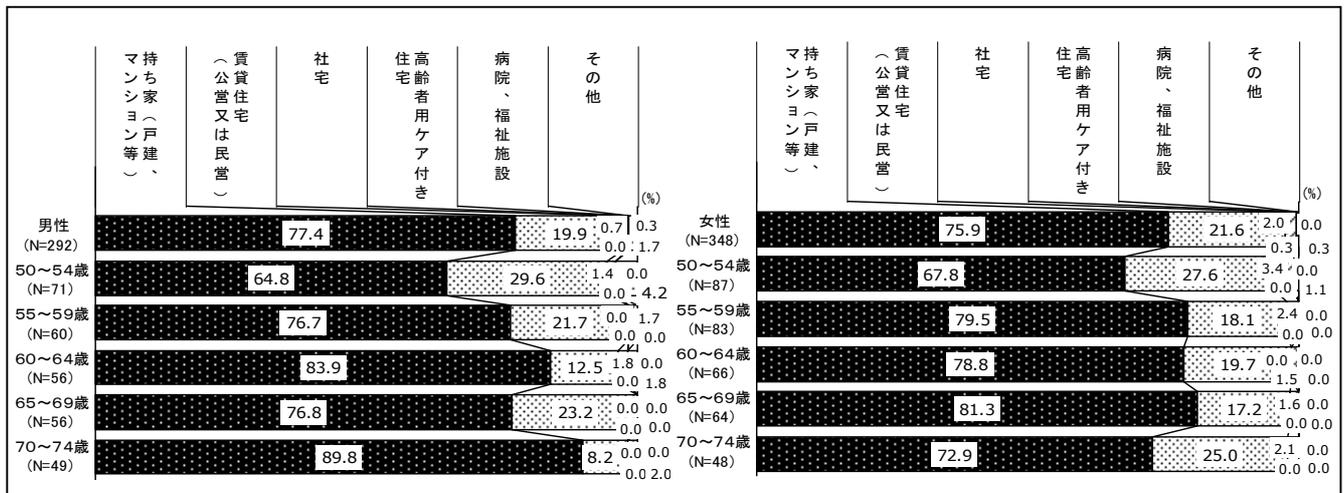
回答者の住居形態は、「持ち家（戸建、マンション等）」が最も高く、76.7%となっている。

図7-4 住居形態



性・年代別にみると、男女ともに「持ち家（戸建、マンション等）」が全体の7割台半ばを占めており、「男性70～74歳」は約9割で最も高くなっている。

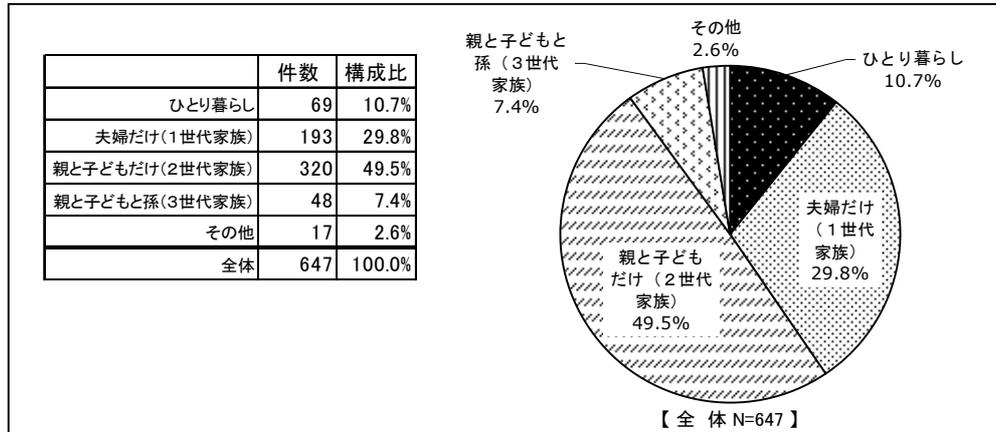
図7-5 住居形態（性・年代別）



(5) 家族構成

回答者の家族構成は、「親と子どもだけ（2世代家族）」が約5割を占めている。

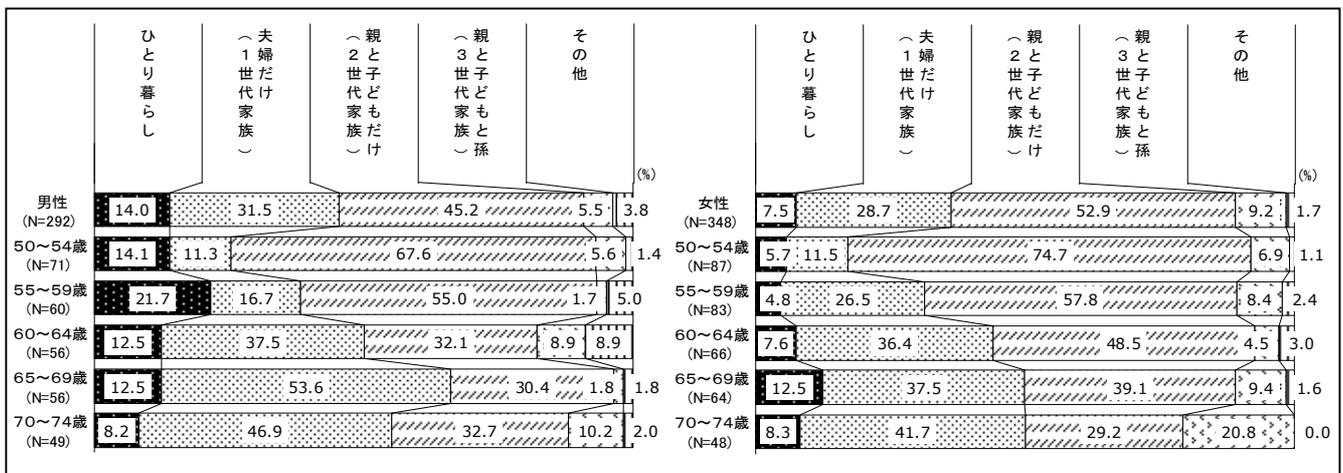
図7-6 家族構成



性・年代別にみると、「男性55～59歳」で「ひとり暮らし」が2割を超えている。

また、男女ともに「夫婦だけ（1世代家族）」は概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、反対に「親と子どもだけ（2世代家族）」は概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

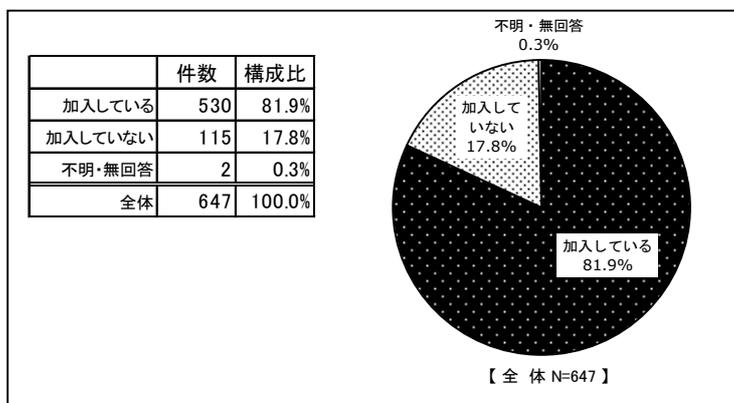
図7-7 家族構成（性・年代別）



（6）町内会・自治会への加入状況

町内会・自治会への加入状況は、「加入している」が81.9%、「加入していない」が17.8%となっている。

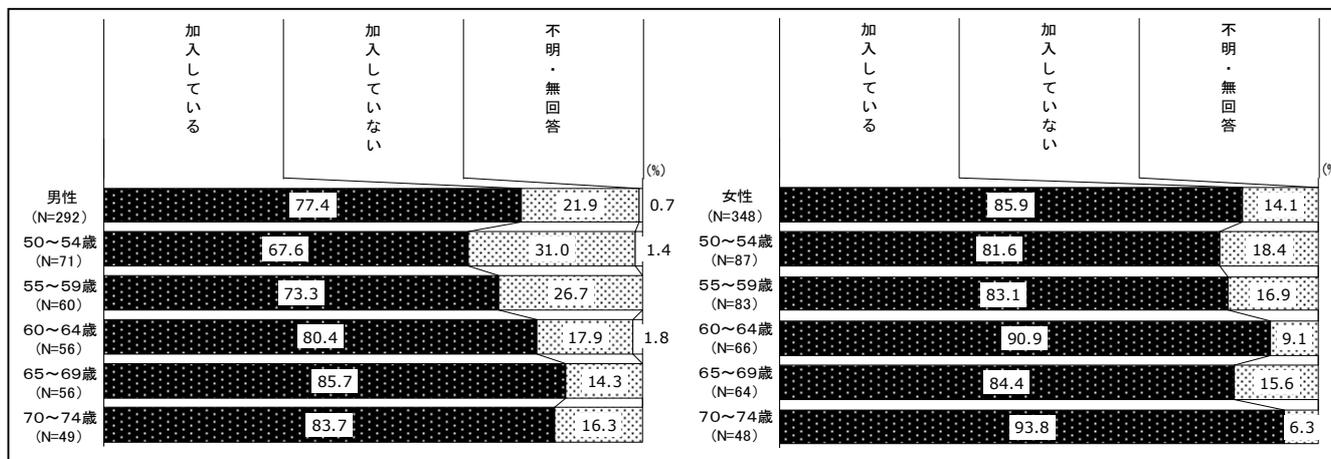
図7-8 町内会・自治会への加入



性・年代別にみると、「加入している」割合は「女性」（85.9%）が「男性」（77.4%）よりも9ポイント高くなっている。

また、男女ともに概ね年代が上がるにつれて「加入している」割合が高くなる傾向がみられ、「女性60～64歳」と「女性70～74歳」では9割を超えている。

図7-9 町内会・自治会への加入（性・年代別）



<参考>平成16年度「シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査」との比較について

本調査（第3章）については、平成16年度に川崎市が実施した「シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査（以下「平成16年度調査」という。）」と、調査の対象年代及び一部の設問の内容・選択肢が（概ね）一致していることから、可能なものについて経年比較を行っている。平成16年度調査の概要は、次のとおり。

○調査目的

「シニア世代の豊かな経験を活かすしくみづくり」を進めるにあたり、この世代の意識や課題を抽出し、効果的な行政施策の構築に資することを目的とする。

○調査対象・回収結果

平成16年4月1日時点で、住民基本台帳及び外国人登録原票に記載の市内在住の50歳以上75歳未満の4,200人（各区600人×7区）に発送、1,734件（41.3%）を回収。

○調査内容

基本属性、住まい、食生活、生活支援サービスの利用、世帯構成と収入、仕事、情報通信機器（パソコン）の利用、社会活動、ライフスタイル、今後の生活設計

※「シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査」の結果詳細は、川崎市ホームページにて公表している。

- ・シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査報告書【概要版】

[http://www.city.kawasaki.jp/200/cmsfiles/contents/0000009/9561/seniorlifestyle\\_summary.pdf](http://www.city.kawasaki.jp/200/cmsfiles/contents/0000009/9561/seniorlifestyle_summary.pdf)

- ・シニア世代のライフスタイルと生活設計に関する調査報告書

[http://www.city.kawasaki.jp/200/cmsfiles/contents/0000009/9561/seniorlifestyle\\_repo.pdf](http://www.city.kawasaki.jp/200/cmsfiles/contents/0000009/9561/seniorlifestyle_repo.pdf)

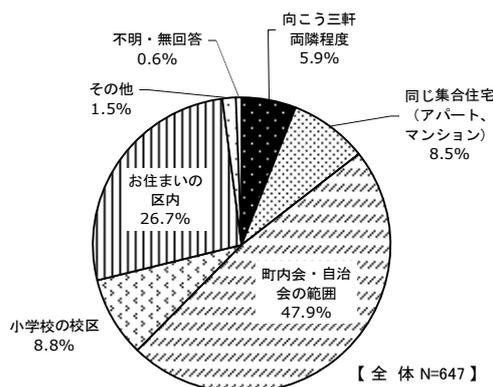
### 3 地域に対する関心・課題認識（50～74歳調査）

#### （1）「地域」の範囲

問1 あなたにとって、「地域」とは、次のうちどの範囲をさすものですか。（○は1つ）

「地域」のさす範囲について尋ねたところ、「町内会・自治会の範囲」が47.9%で最も高く、次いで「お住まいの区内」（26.7%）となっている。

図8-1 「地域」の範囲

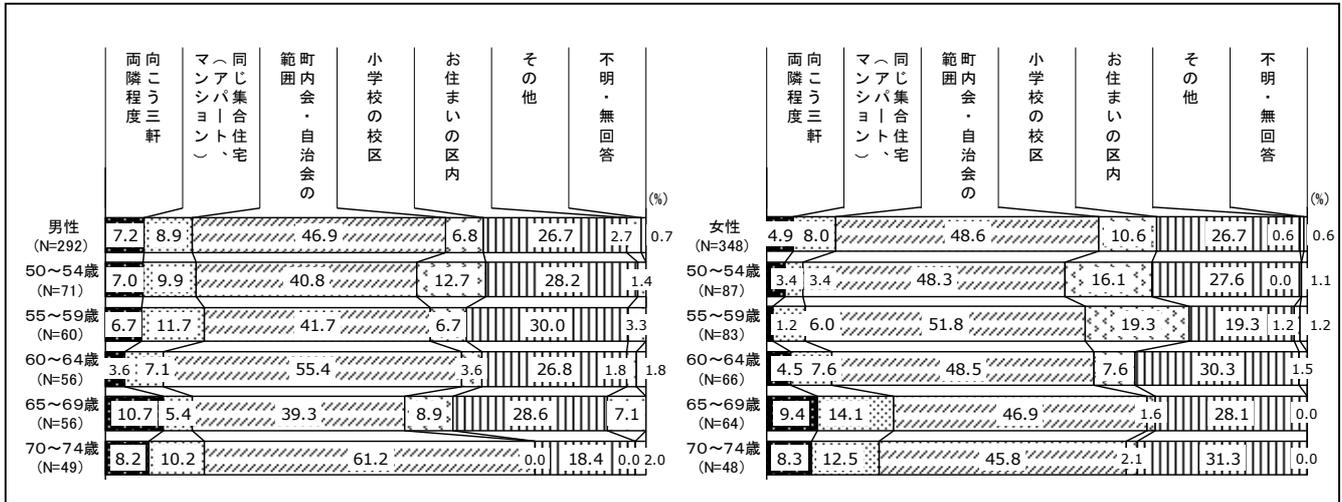


第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

性・年代別にみると、男女ともに「町内会・自治会の範囲」が高く、特に「男性70～74歳」では6割を超えている。

また、「向こう三軒両隣程度」では男女ともに「65歳以上」が高く、女性は「同じ集合住宅（アパート・マンション）」においても同様の傾向がみられる。

図8-2 「地域」の範囲（性・年代別）

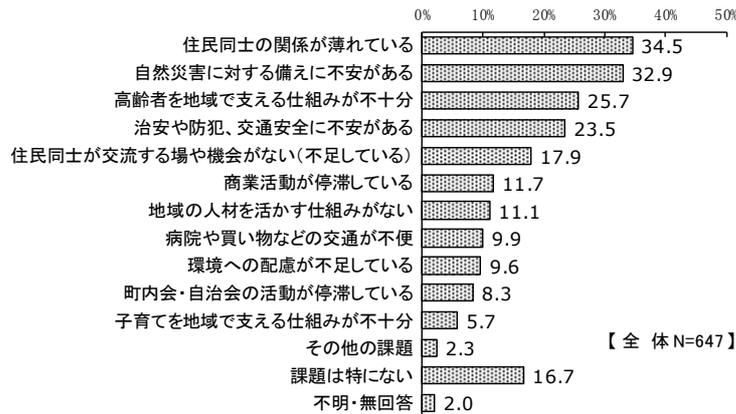


(2) 地域の課題

問2 あなたがお住まいの地域において、課題だと感じる項目を選んでください。  
(○は3つまで)

地域の課題だと感じる項目について尋ねたところ、「住民同士の関係が薄れている」が34.5%で最も高く、次いで「自然災害に対する備えに不安がある」(32.9%)、「高齢者を地域で支える仕組みが不十分」(25.7%)、「治安や防犯、交通安全に不安がある」(23.5%)、「住民同士が交流する場や機会がない(不足している)」(17.9%)となっている。

図8-3 地域の課題

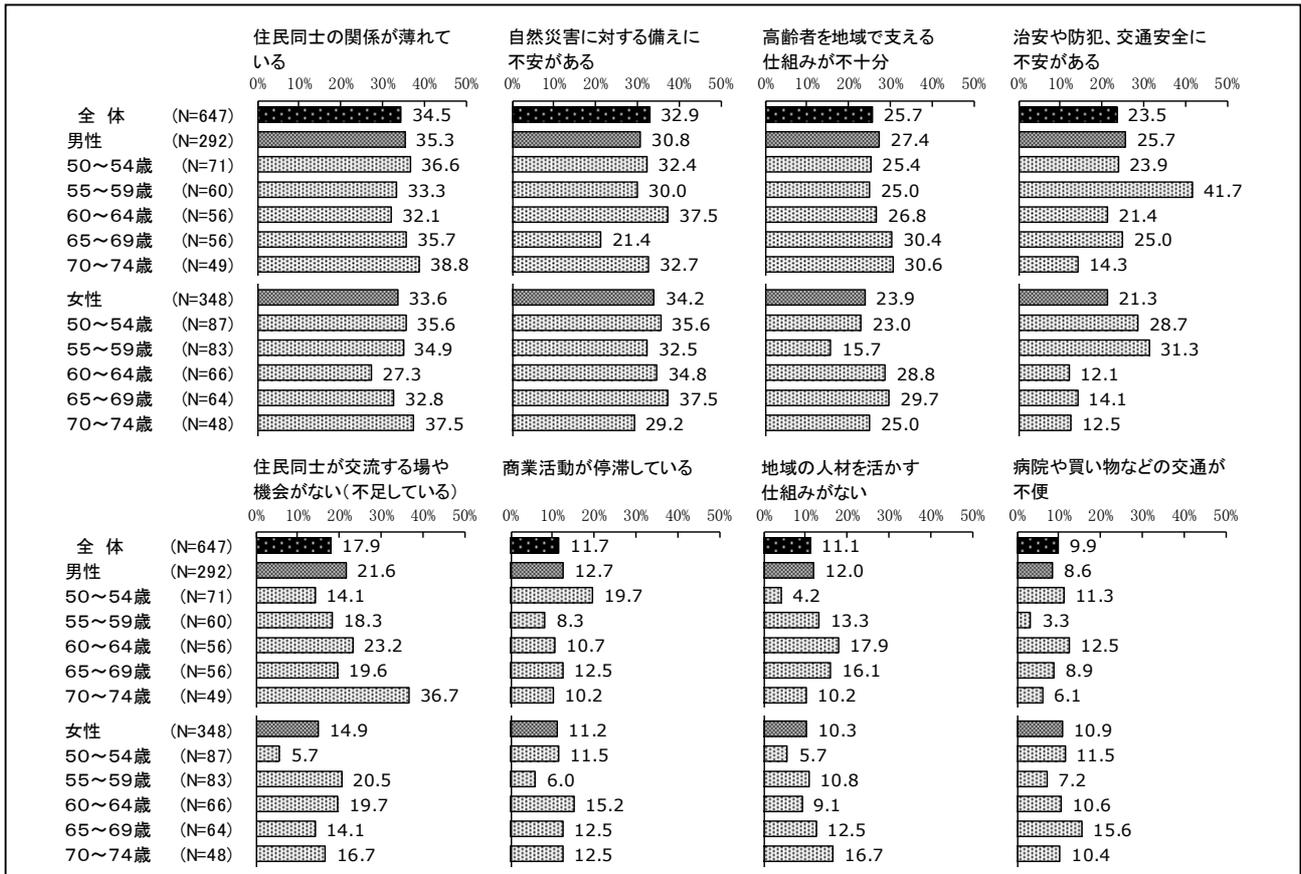


上位8項目について性・年代別にみると、「高齢者を地域で支える仕組みが不十分」では「男性」（27.4%）が「女性」（23.9%）よりも4ポイント高く、男性は「65歳以上」、女性は60代で3割前後となっている。

また、「治安や防犯、交通安全に不安がある」では、「男性」（25.7%）が「女性」（21.3%）よりも4ポイント高く、「男性55～59歳」は41.7%で最も高くなっている。

そのほか、「住民同士が交流する場や機会がない（不足している）」では「男性」（21.6%）が「女性」（14.9%）よりも7ポイント高く、男性は概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

図8-4 地域の課題（性・年代別）—上位8項目—

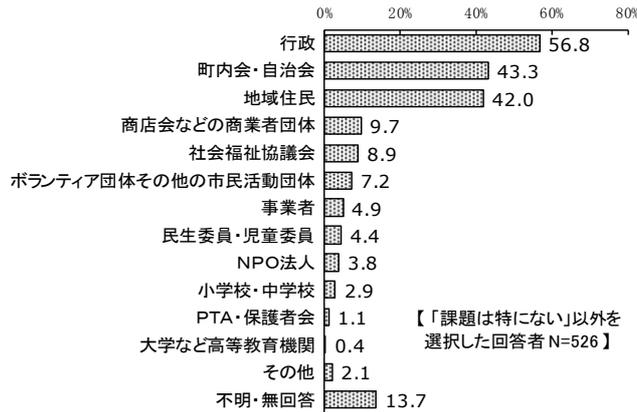


（3）課題に積極的に取り組むべき主体

問3 あなたがお住まいの地域における課題に、誰（どの主体）が積極的に取り組むべきだと思いますか。（〇は3つまで）  
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、誰（どの主体）が課題に対して積極的に取り組むべきか尋ねたところ、「行政」が56.8%で最も高く、次いで「町内会・自治会」（43.3%）、「地域住民」（42.0%）となっている。

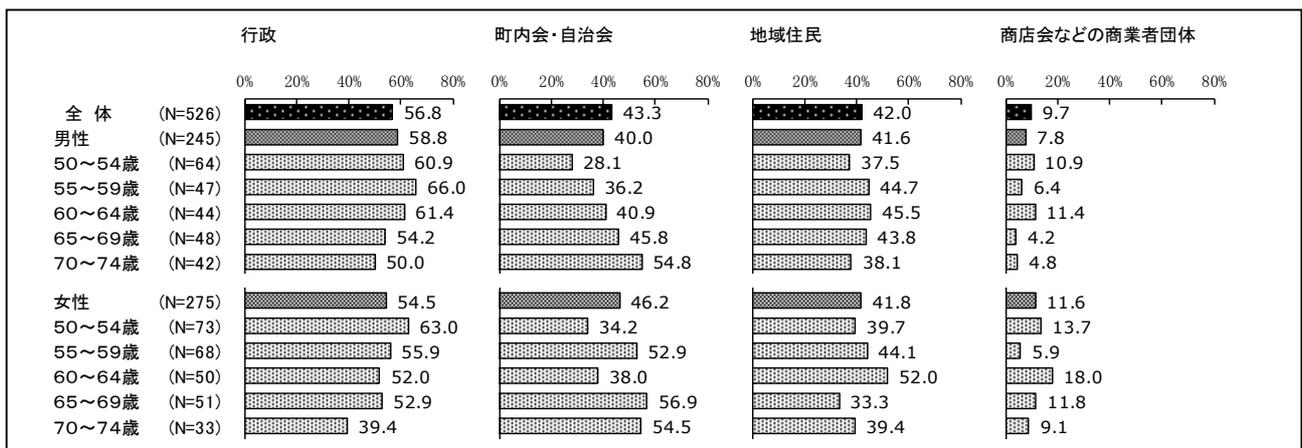
図8-5 課題に積極的に取り組むべき主体



上位4項目について性・年代別にみると、「行政」では「男性」（58.8%）が「女性」（54.5%）よりも4ポイント高く、男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

「町内会・自治会」では「女性」（46.2%）が「男性」（40.0%）よりも6ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、女性は「55～59歳」と「65歳以上」で5割台となっている。

図8-6 課題に積極的に取り組むべき主体（性・年代別）—上位4項目—

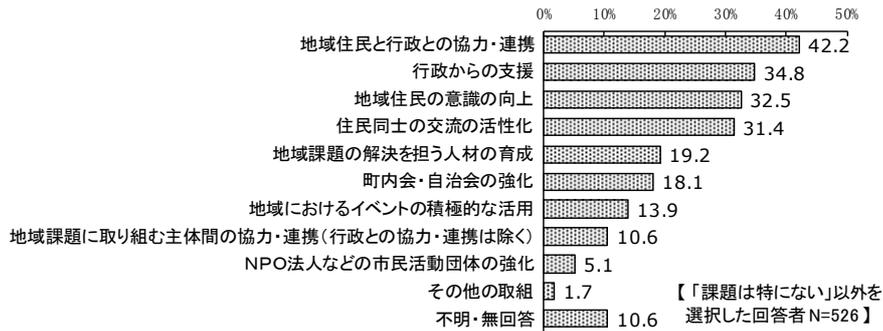


（4）課題解決に有効な取組

問4 あなたがお住まいの地域における課題を解決するための取組として、何が有効だと思いますか。（〇は3つまで）  
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するための取組として何が有効だと思うか尋ねたところ、「地域住民と行政との協力・連携」が42.2%で最も高く、次いで「行政からの支援」（34.8%）、「地域住民の意識の向上」（32.5%）、「住民同士の交流の活性化」（31.4%）となっている。

図8-7 課題解決に有効な取組



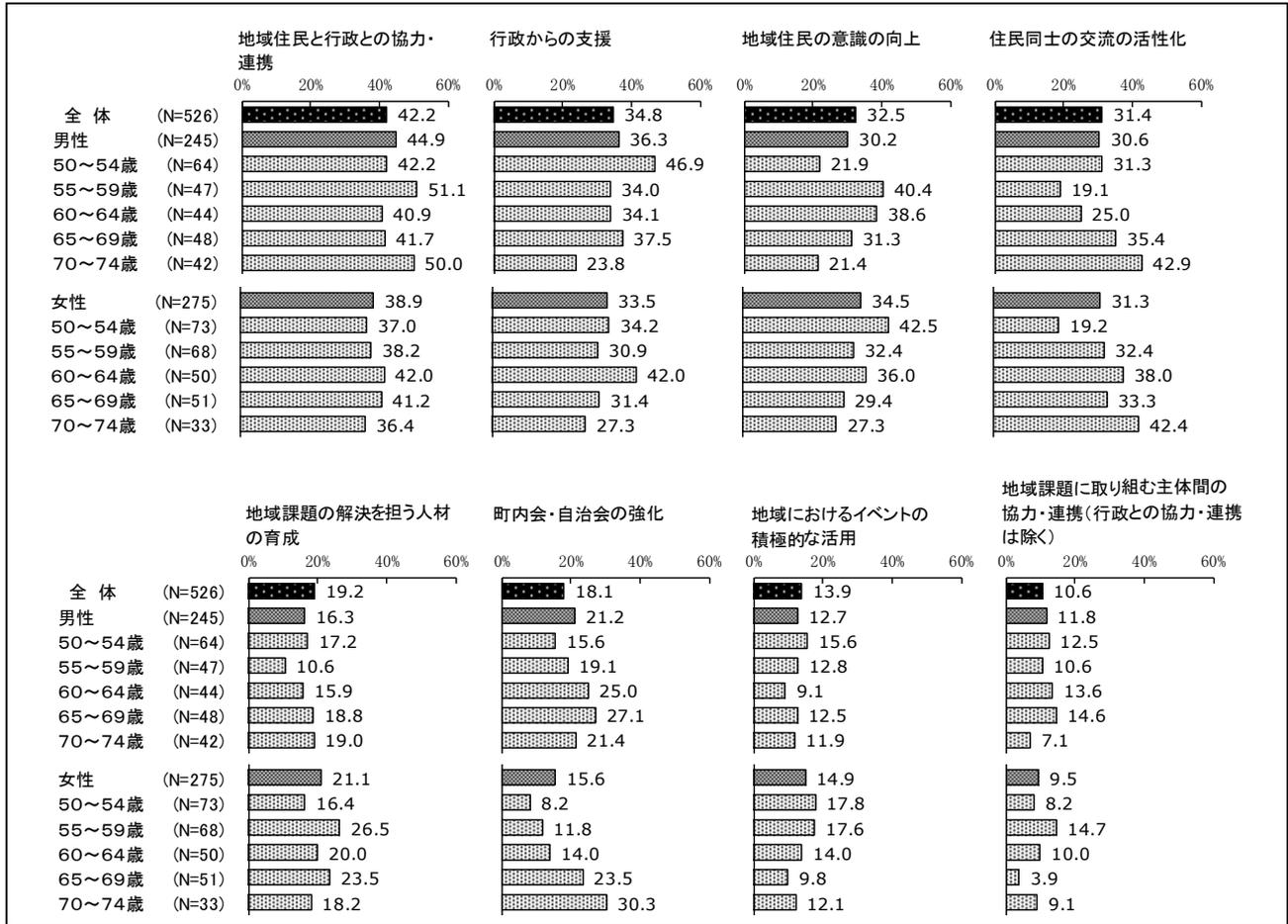
第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「地域住民と行政との協力・連携」と「町内会・自治会の強化」では「男性」が「女性」よりも6ポイント高くなっている。

また、「行政からの支援」では「男性50～54歳」と「女性60～64歳」が4割台で他の年代よりも高くなっている。

そのほか、「地域住民の意識の向上」では男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる、反対に「住民同士の交流の活性化」では概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

図8-8 課題解決に有効な取組（性・年代別）—上位8項目—

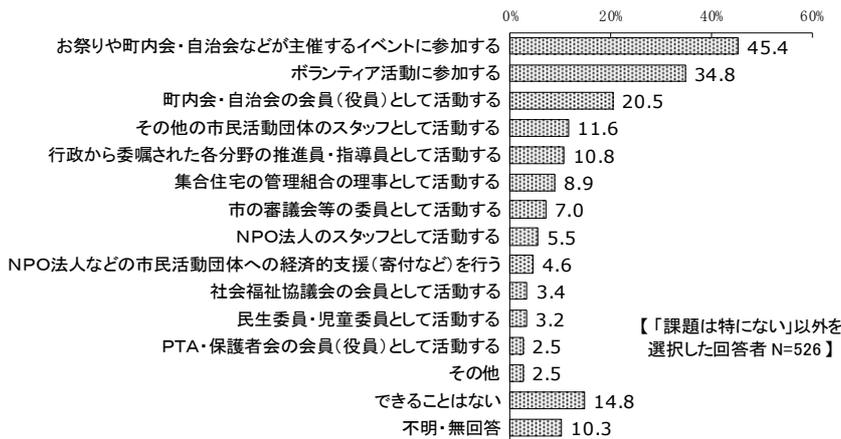


(5) 課題解決のために自身ができること

問5 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、あなたご自身ができることがあるとすれば、次のどれですか。（〇はいくつでも）  
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するために自身ができることについて尋ねたところ、「お祭りや町内会・自治会などが主催するイベントに参加する」が45.4%で最も高く、次いで「ボランティア活動に参加する」（34.8%）、「町内会・自治会の会員（役員）として活動する」（20.5%）となっている。

図8-9 課題解決のために自身ができること



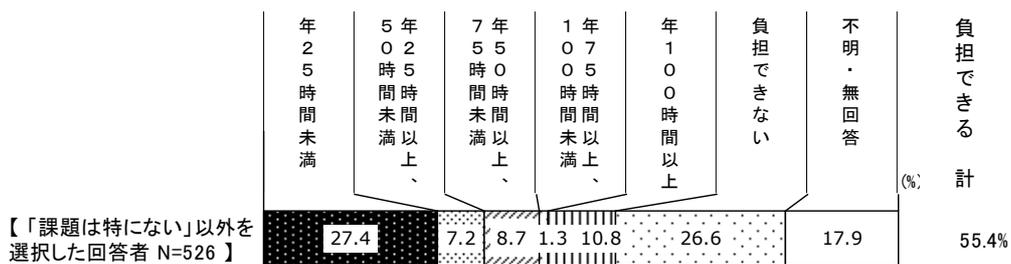
(6) 課題解決のために負担できる時間

問6 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、年間にあなたご自身が負担できる時間、経済的負担はどれくらいですか。  
 それぞれの（ ）内に、あてはまる数字をご記入ください。  
 (ア) 時間 年に（ ）時間  
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するために負担できる時間を尋ねたところ、「負担できない」及び「不明・無回答」を除いた「負担できる 計」は55.4%を占めており、その内訳としては、「年2.5時間未満」が27.4%で最も高くなっている。

一方で「負担できない」は26.6%となっている。

図8-10 課題解決のために負担できる時間

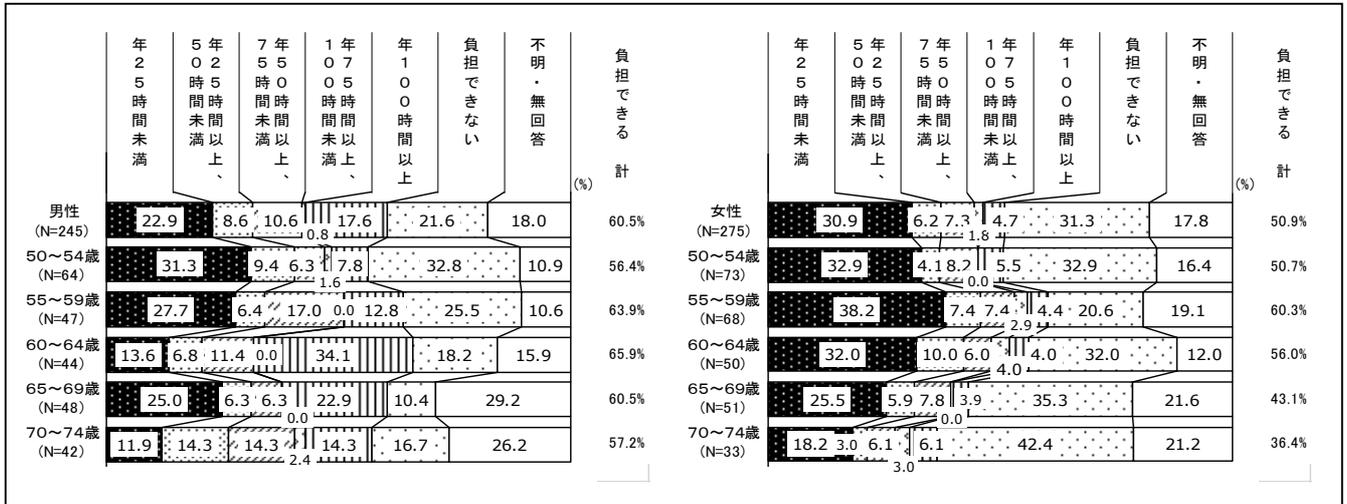


第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

性・年代別にみると、「負担できる 計」の割合は、「男性」（60.4%）が「女性」（50.9%）よりも10ポイント高くなっている。

また、「女性70～74歳」は「負担できない」割合が42.4%で他の年代よりも高くなっている。

図8-11 課題解決のために負担できる時間（性・年代別）

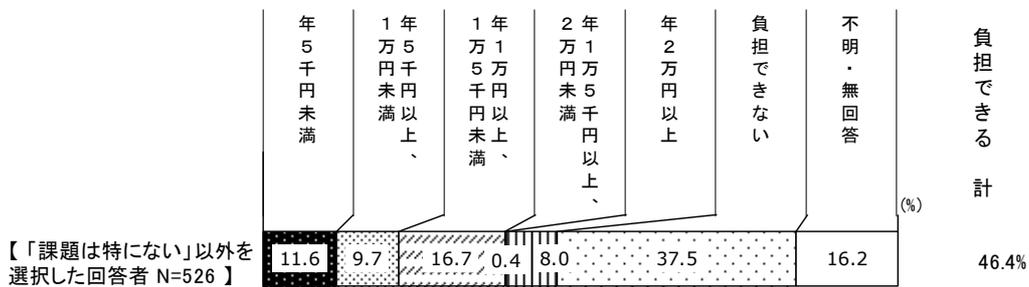


(7) 課題解決のために負担できる経済的負担

問6 あなたがお住まいの地域における課題を解決するために、  
 年間にあなたご自身が負担できる時間、経済的負担はどれくらいですか。  
 それぞれの( )内に、あてはまる数字をご記入ください。  
 (イ) 経済的負担 年に( )円  
 ※問2で「課題は特にない」以外を選択した回答者が対象

地域において何らかの課題を感じている人に、課題を解決するために負担できる金額を尋ねたところ、「負担できない」及び「不明・無回答」を除いた「負担できる 計」は46.4%を占めており、その内訳としては、「年1万円以上、1万5千円未満」が16.7%で最も高くなっている。一方で、「負担できない」は37.5%となっている。

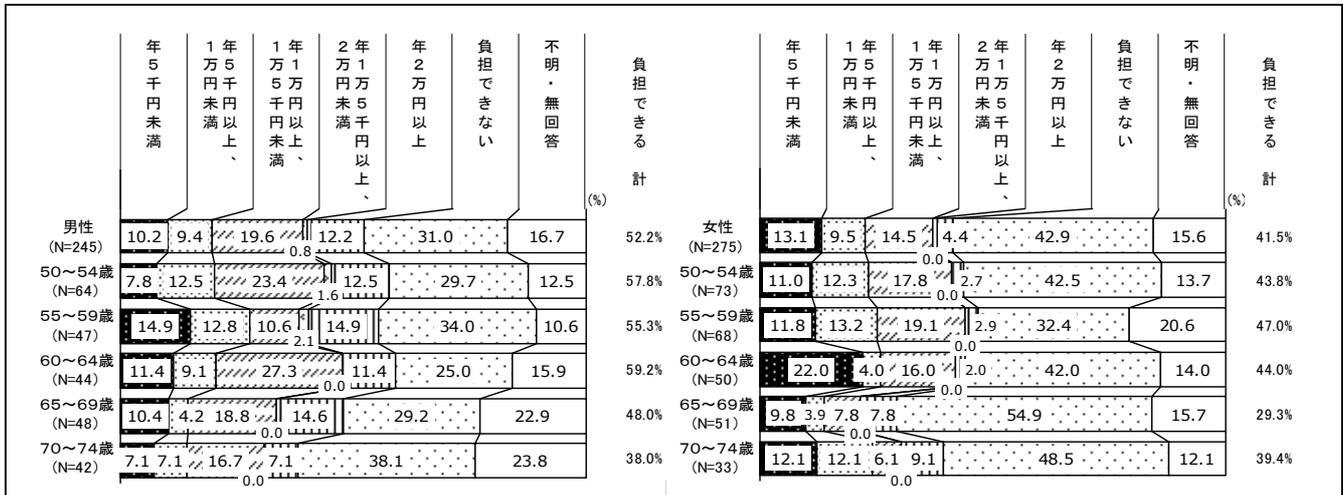
図8-12 課題解決のために負担できる経済的負担



性・年代別にみると、「負担できる 計」の割合は、「男性」（52.2%）が「女性」（41.5%）よりも10ポイント高くなっている。

また、「負担できない」の割合は、男性では「70～74歳」（38.1%）、女性では「女性65～69歳」（54.9%）及び「70～74歳」（48.5%）が高くなっている。

図8-13 課題解決のために負担できる経済的負担（性・年代別）



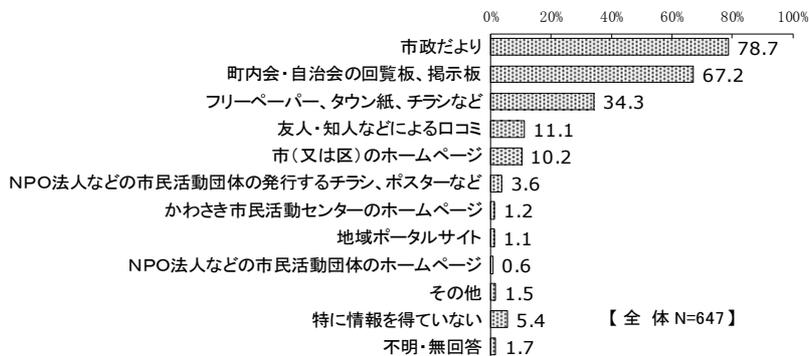
#### 4 社会活動・地域活動への参加の状況や認識（50～74歳調査）

##### (1) 社会活動・地域活動に関する情報の入手先

問7 社会活動・地域活動に関する情報を、主にどのような媒体を通じて得ていますか。  
(○は3つまで)

社会活動・地域活動に関する情報の入手先については、「市政だより」が78.7%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板、掲示板」(67.2%)、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」(34.3%)となっている。

図9-1 社会活動・地域活動に関する情報の入手先

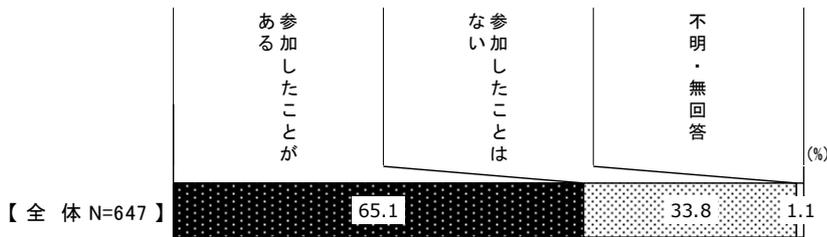


（2）社会活動・地域活動への参加経験

問8 あなたはこれまでに社会活動・地域活動に参加したことがありますか。（○は1つ）

社会活動・地域活動への参加経験については、「参加したことがある」が65.1%で、「参加したことはない」が33.8%となっている。

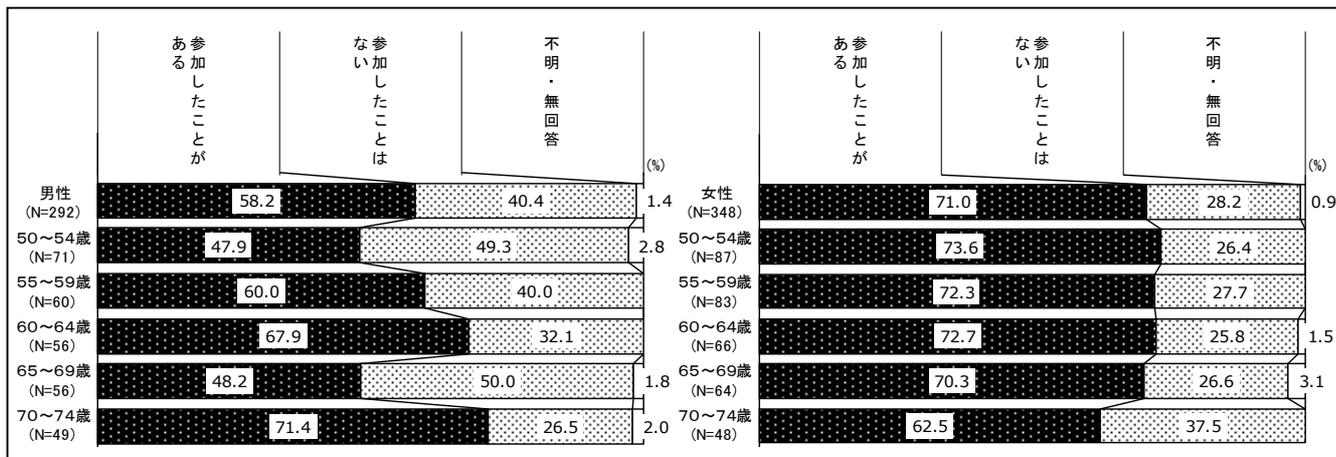
図9-2 社会活動・地域活動への参加経験



性・年代別にみると、「参加したことがある」割合は「女性」（71.0%）が「男性」（58.2%）よりも13ポイント高くなっており、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、男性は「50～54歳」と「65～69歳」で「参加したことがある」割合が4割台にとどまっている。

図9-3 社会活動・地域活動への参加経験（性・年代別）

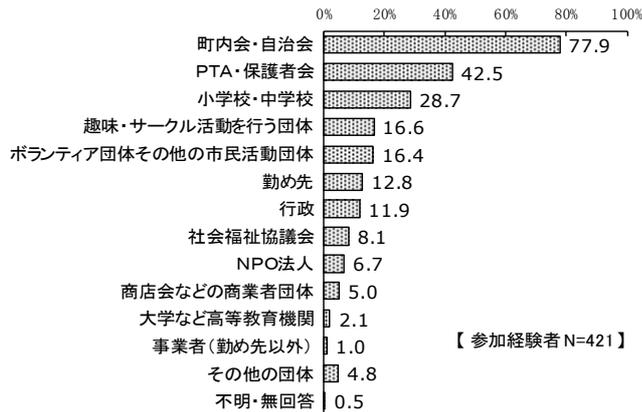


（3）参加経験のある社会活動・地域活動の主催団体

問9 あなたは、どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したことがありますか。（〇はいくつでも）  
 ※参加経験者が対象

社会活動・地域活動に参加した経験があると回答した人に、参加したことがある活動の主催団体を尋ねたところ、「町内会・自治会」が77.9%で最も高く、次いで「PTA・保護者会」（42.5%）、「小学校・中学校」（28.7%）となっている。

図9-4 参加経験のある社会活動・地域活動の主催団体

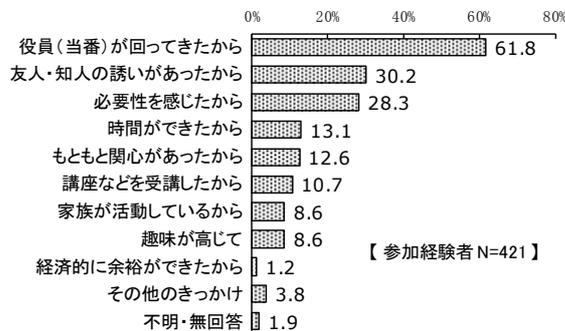


（4）社会活動・地域活動に参加したきっかけ

問10 社会活動・地域活動に参加したきっかけは次のどれですか。（〇は3つまで）  
 ※参加経験者が対象

社会活動・地域活動に参加した経験があると回答した人に、参加したきっかけを尋ねたところ、「役員（当番）が回ってきたから」が61.8%で最も高く、次いで「友人・知人の誘いがあったから」（30.2%）、「必要性を感じたから」（28.3%）となっている。

図9-5 社会活動・地域活動に参加したきっかけ

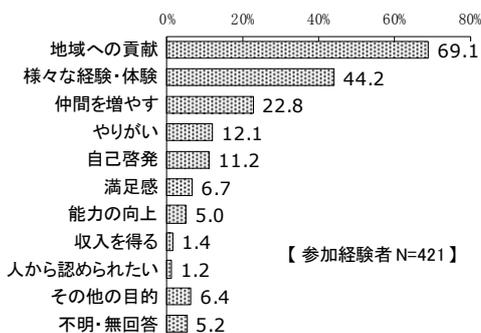


(5) 社会活動・地域活動に参加した目的

問11 あなたが、社会活動・地域活動に参加した目的は何ですか。（○は3つまで）  
 ※参加経験者が対象

社会活動・地域活動に参加した経験があると回答した人に、参加した目的を尋ねたところ、「地域への貢献」が69.1%で最も高く、次いで「様々な経験・体験」（44.2%）、「仲間を増やす」（22.8%）となっている。

図9-6 社会活動・地域活動に参加した目的



(6) 社会活動・地域活動への参加状況

問12 (ア) 現在、継続して社会活動・地域活動に参加していますか。（○は1つ）

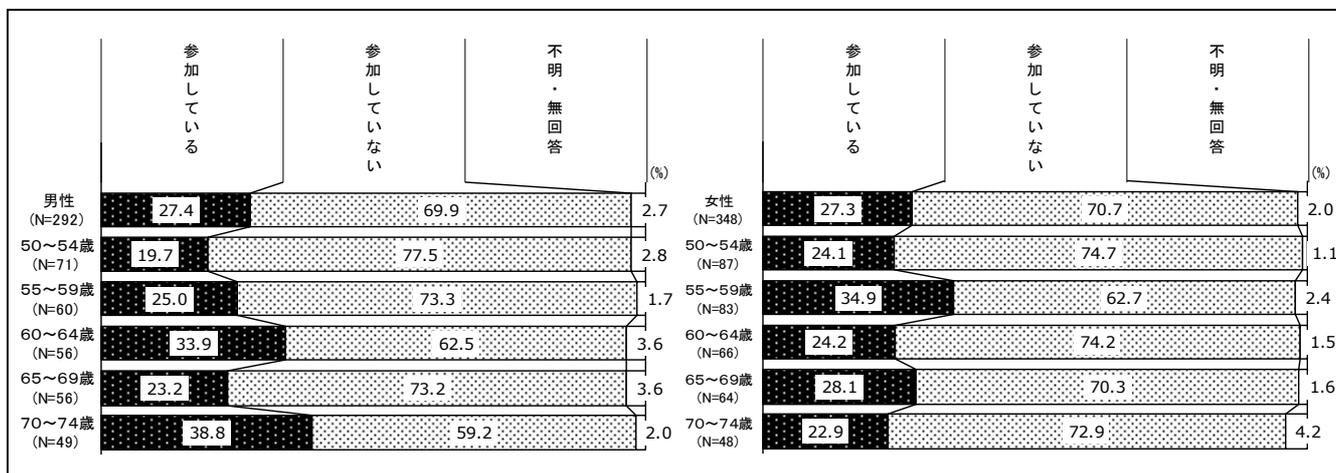
社会活動・地域活動への現在の参加状況については、「参加している」が27.2%で、「参加していない」が70.5%となっている。

図9-7 社会活動・地域活動への参加状況



性・年代別にみると、「参加している」割合は「男性70～74歳」（38.8%）が4割弱で最も高く、次いで「女性55～59歳」（34.9%）、「男性60～64歳」（33.9%）となっている。

図9-8 社会活動・地域活動への参加状況（性・年代別）

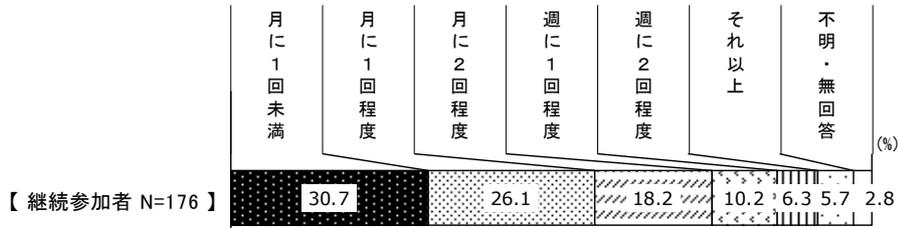


(7) 活動の頻度

問12 (イ) また、その活動の頻度はどれくらいですか。(〇は1つ)  
 ※継続参加者が対象

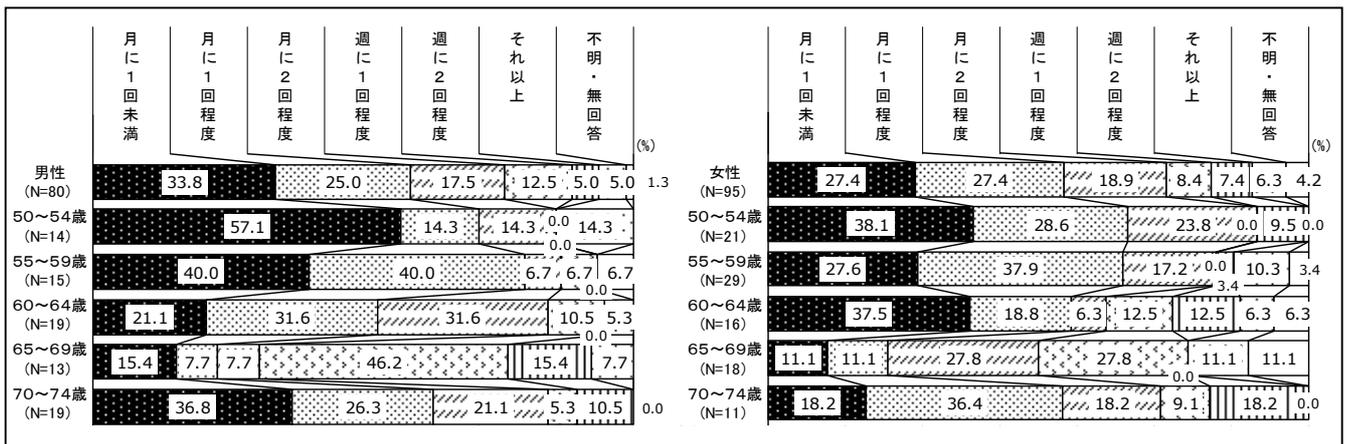
社会活動・地域活動に参加している人に活動の頻度を尋ねたところ、「月に1回未満」が30.7%で最も高く、次いで「月に1回程度」が26.1%となっている。

図9-9 活動の頻度



性・年代別にみると、「月に1回未満」の割合は「男性」(33.8%)が「女性」(27.4%)よりも6ポイント高くなっている。

図9-10 活動の頻度 (性・年代別)

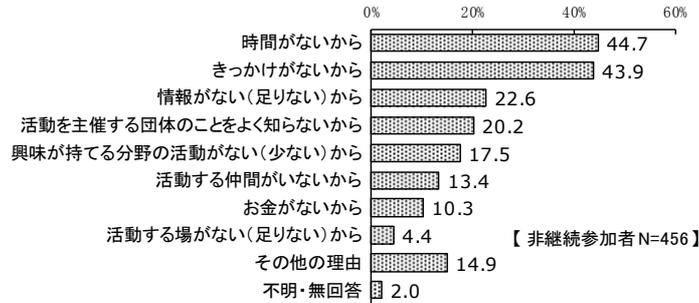


(8) 社会活動・地域活動に参加しない理由

問13 あなたが、社会活動・地域活動に参加しない理由は何ですか。（〇は3つまで）  
 ※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加していない人に、参加しない理由を尋ねたところ、「時間がないから」が44.7%で最も高く、次いで「きっかけがないから」（43.9%）となっている。

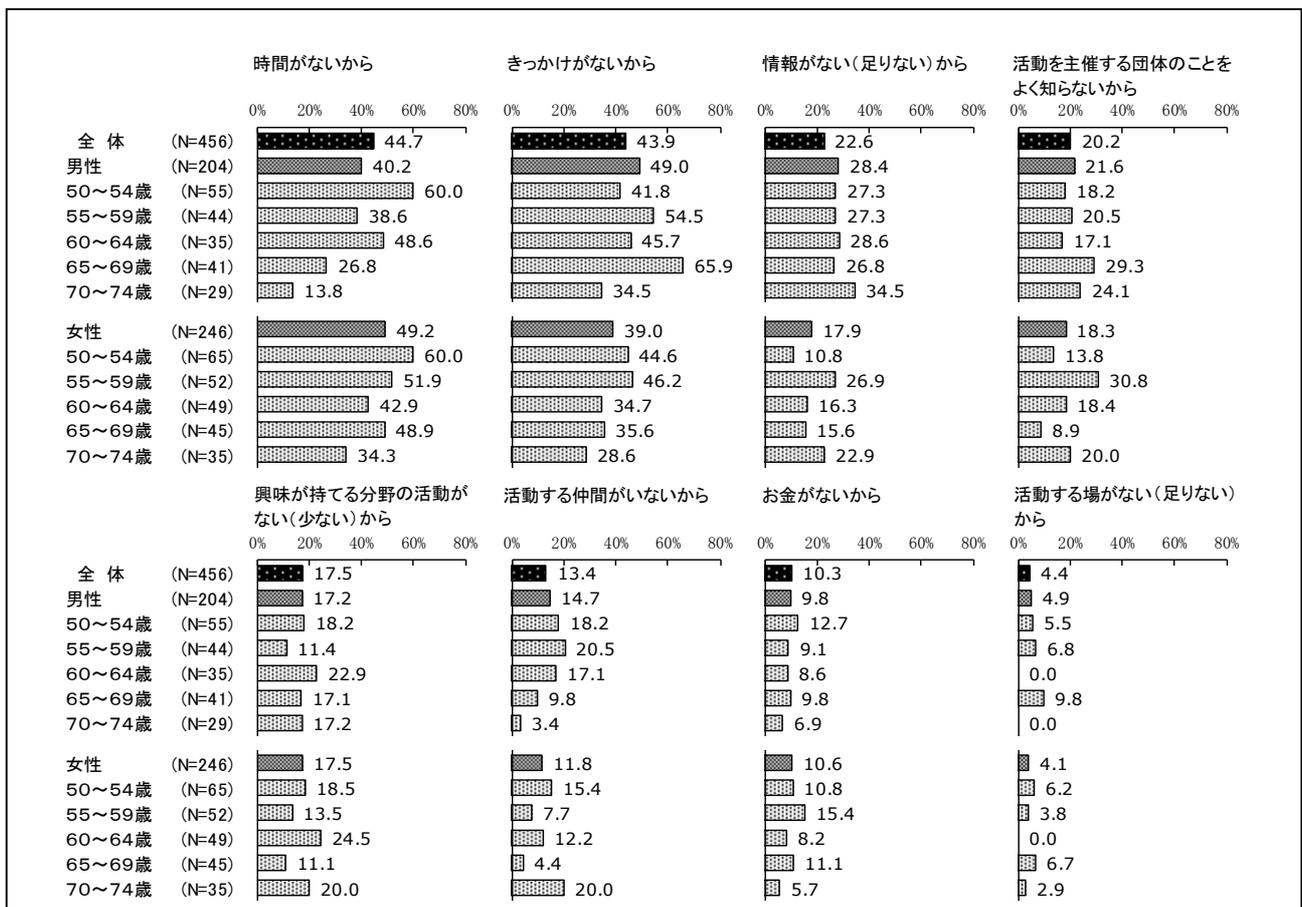
図9-11 社会活動・地域活動に参加しない理由



上位8項目について性・年代別にみると、「時間がないから」では概ね男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられ、男女の「50～54歳」は6割となっている。

また、「きっかけがないから」では「男性65～69歳」が65.9%で最も高くなっている。

図9-12 社会活動・地域活動に参加しない理由（性・年代別）—上位8項目—

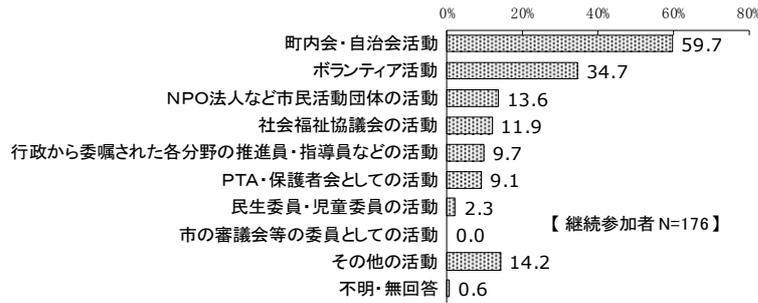


(9) 参加している社会活動・地域活動

問14 あなたが参加している、社会活動・地域活動は次のどれですか。（○はいくつでも）  
※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加している人に、参加している活動の内容を尋ねたところ、「町内会・自治会活動」が59.7%で最も高く、次いで「ボランティア活動」（34.7%）、「NPO法人など市民活動団体の活動」（13.6%）となっている。

図9-13 参加している社会活動・地域活動



(10) 社会活動・地域活動の継続年数

問15 あなたは、どれくらいの間、社会活動・地域活動を続けていますか。（○は1つ）  
※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加している人に活動の継続年数を尋ねたところ、「3年以上」が59.7%で最も高くなっている。

図9-14 社会活動・地域活動の継続年数



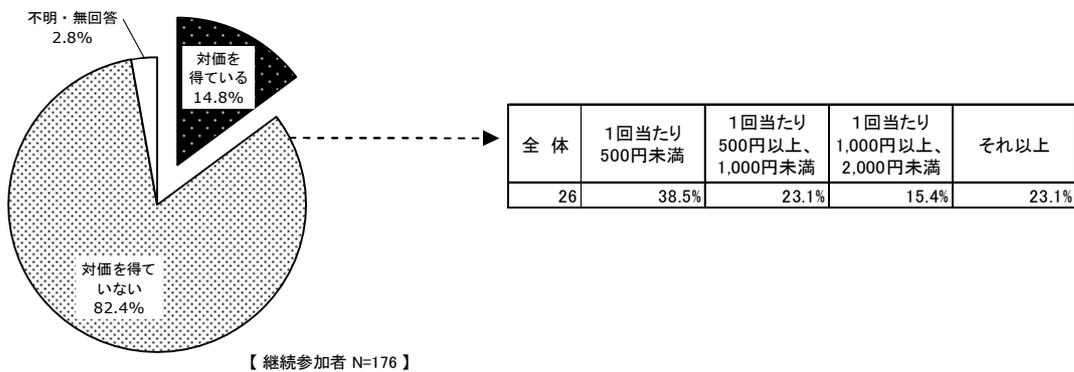
(11) 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況

問16 (ア) あなたは、社会活動・地域活動へ参加することで金銭による対価を得ていますか。(○は1つ)  
 問16 (イ) 対価を得ている場合、活動1回当たりの対価の金額はどれくらいですか。(○は1つ)  
 ※継続参加者が対象

社会活動・地域活動に参加している人に、参加することで金銭による対価を得ているか尋ねたところ、参加者の82.4%が「対価を得ていない」と回答している。

また、「対価を得ている」と回答した人に活動1回当たりの対価の金額を尋ねたところ、基数は少ないものの、「1回当たり500円未満」が38.5%で最も高くなっている。

図9-15 社会活動・地域活動への参加による対価の取得状況

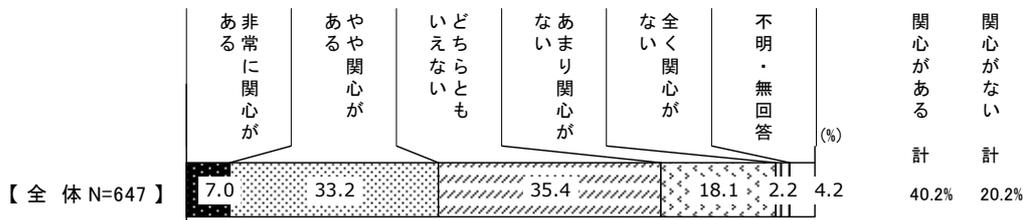


(12) 社会活動・地域活動への関心度

問17 あなたは、社会活動・地域活動にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

社会活動・地域活動への関心度は、「どちらともいえない」が35.4%で最も高く、「非常に関心がある」(7.0%)と「やや関心がある」(33.2%)をあわせた「関心がある 計」は40.2%となっている。

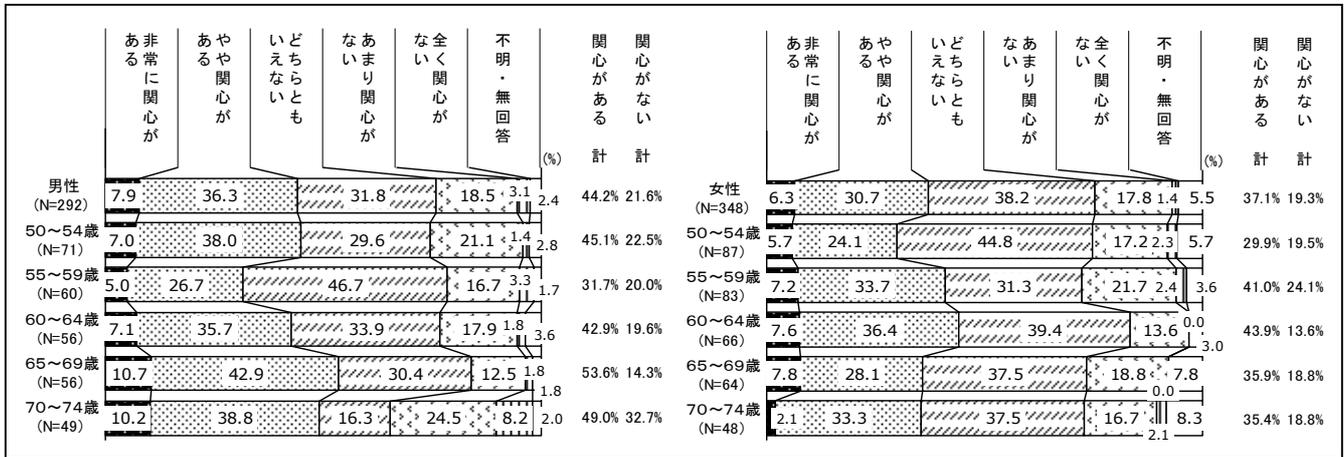
図9-16 社会活動・地域活動への関心度



性・年代別にみると、「関心がある 計」の割合は「男性」（44.2%）が「女性」（37.1%）よりも7ポイント高く、「男性65～69歳」は53.6%で最も高くなっている。

一方で、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた「関心がない 計」の割合は「男性70～74歳」が32.7%で他の年代よりも高くなっている。

図9-17 社会活動・地域活動への関心度（性・年代別）

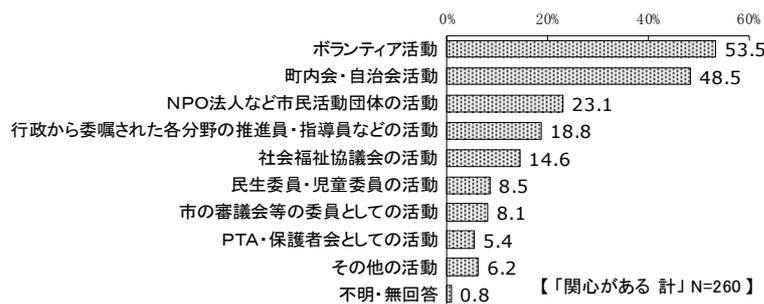


(13) 関心のある社会活動・地域活動

問18 あなたが関心のある社会活動・地域活動は次のどれですか。（○はいくつでも）  
 ※「非常に関心がある」または「やや関心がある」を選択した回答者が対象

社会活動・地域活動に関心があると回答した人に、関心のある活動内容を尋ねたところ、「ボランティア活動」が53.5%で最も高く、次いで「町内会・自治会活動」（48.5%）、「NPO法人など市民活動団体の活動」（23.1%）となっている。

図9-18 関心のある社会活動・地域活動

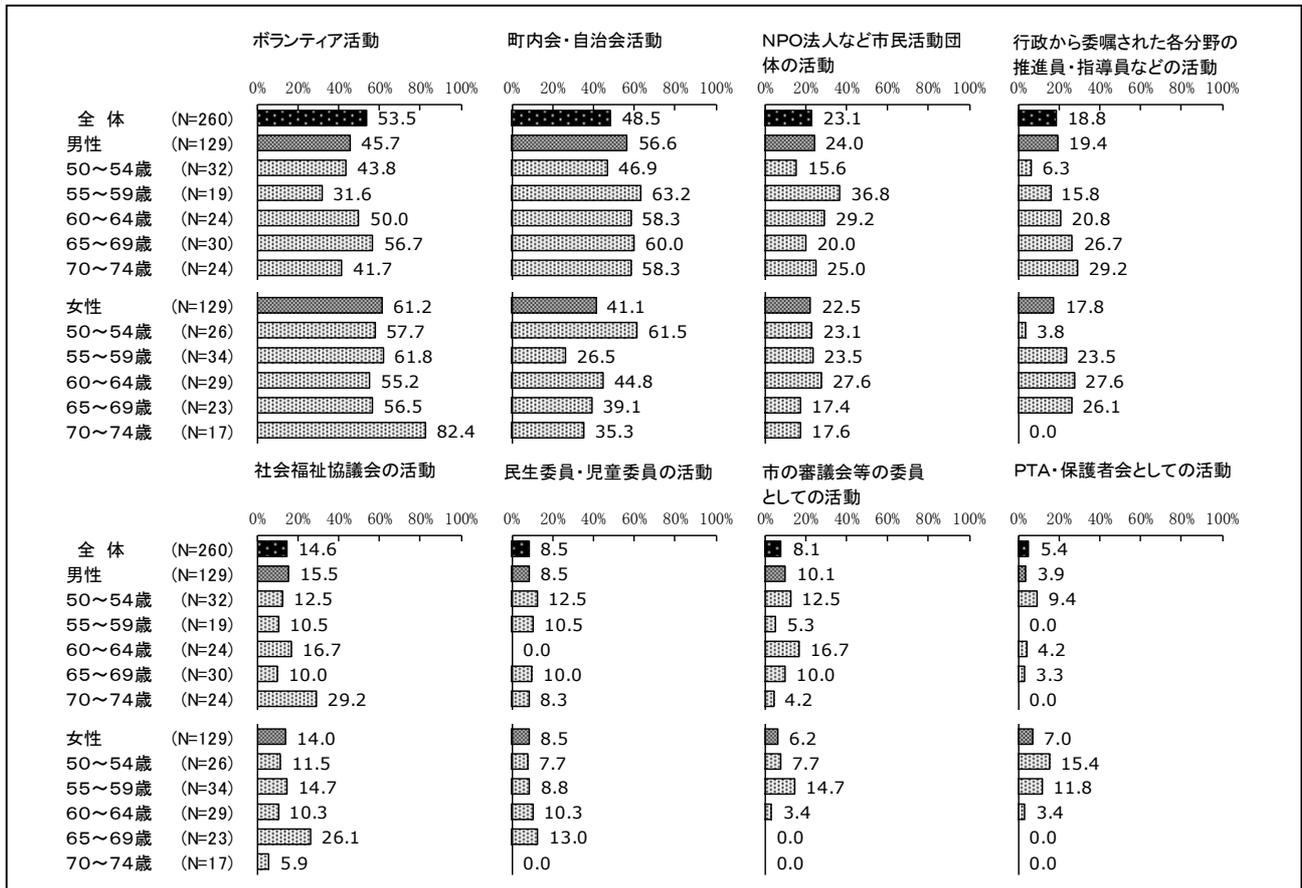


第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「ボランティア活動」では「女性」（61.2%）が「男性」（45.7%）よりも16ポイント高く、基数は少ないものの「女性70～74歳」が82.4%で高くなっている。

また、「町内会・自治会活動」では「男性」（56.6%）が「女性」（41.1%）よりも16ポイント高く、「男性55歳以上」と「女性50～54歳」が6割前後となっている。

図9-19 関心のある社会活動・地域活動（性・年代別）—上位8項目—

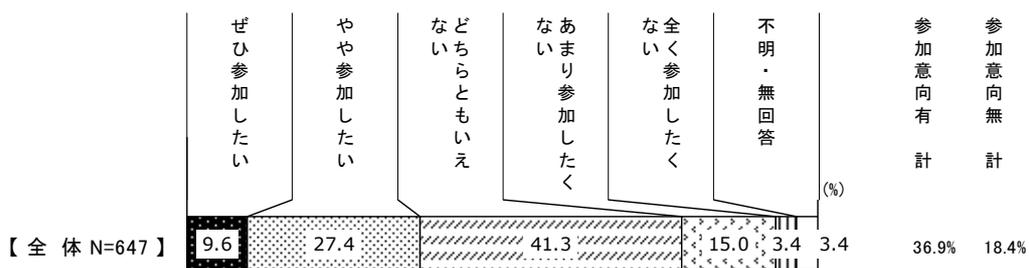


(14) 今後の社会活動・地域活動への参加意向

問19 あなたは、今後、社会活動・地域活動に参加したいと思いますか。（○は1つ）

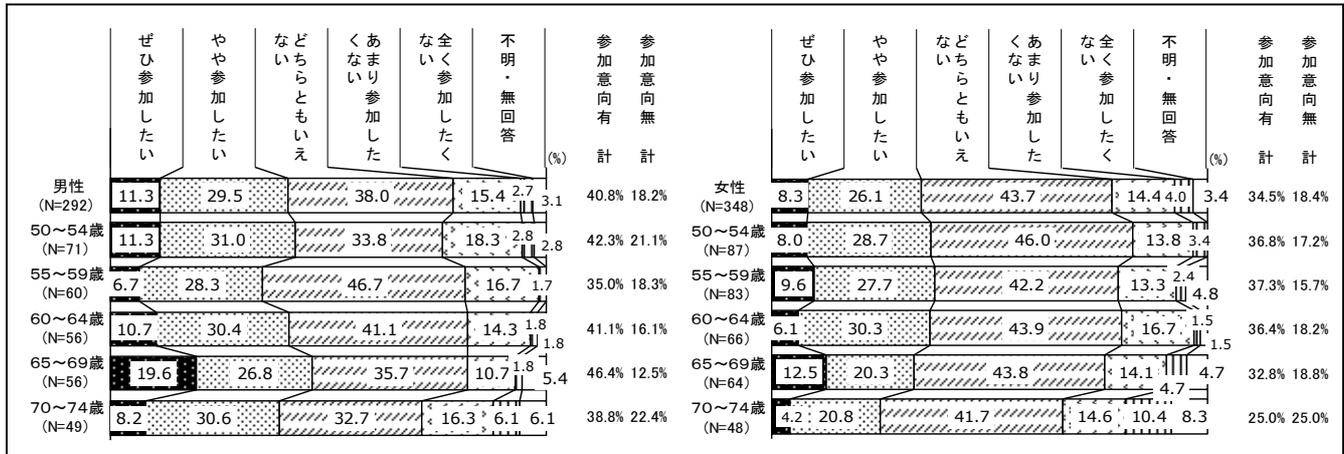
今後の社会活動・地域活動への参加意向については、「どちらともいえない」が41.3%で最も高く、「ぜひ参加したい」（9.6%）と「やや参加したい」（27.4%）をあわせた「参加意向有 計」は36.9%となっている。

図9-20 今後の社会活動・地域活動への参加意向



性・年代別にみると、「参加意向有 計」の割合は、「男性」（40.8%）が「女性」（34.5%）よりも6ポイント高く、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

図9-21 今後の社会活動・地域活動への参加意向（性・年代別）

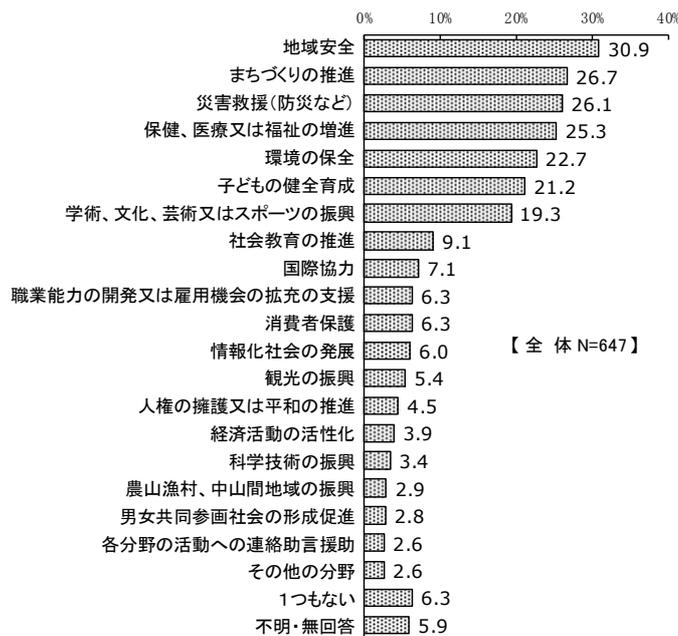


(15) 参加したい社会活動・地域活動の分野

問20 あなたは、どのような分野の社会活動・地域活動であれば参加したいと思いますか。（〇はいくつでも）

どのような社会活動・地域活動であれば参加したいか尋ねたところ、「地域安全」が30.9%で最も高く、次いで「まちづくりの推進」（26.7%）、「災害救援（防災など）」（26.1%）、「保健、医療又は福祉の増進」（25.3%）、「環境の保全」（22.7%）、「子どもの健全育成」（21.2%）、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興」（19.3%）となっている。

図9-22 参加したい社会活動・地域活動の分野

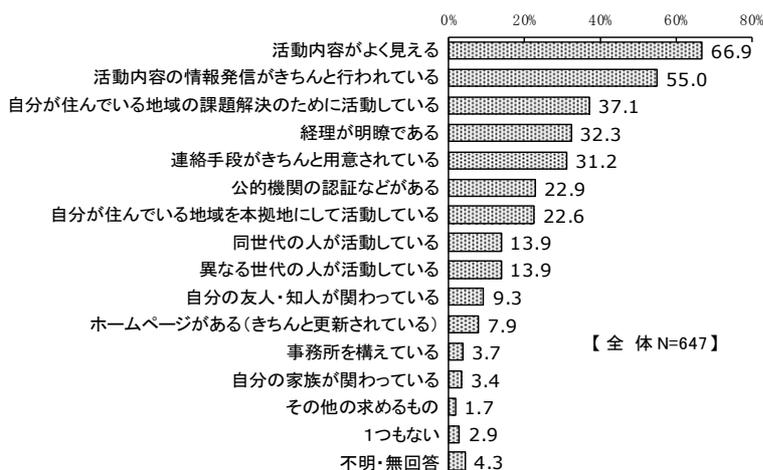


(16) 活動を主催する団体に求めるもの

問21 あなたが、社会活動・地域活動への参加を決める際に、活動を主催する団体に求めるものは次のどれですか。（○は5つまで）

社会活動・地域活動への参加を決める際に、活動を主催する団体に求めることは、「活動内容がよく見える」が66.9%で最も高く、次いで「活動内容の情報発信がきちんに行われている」（55.0%）、「自分が住んでいる地域の課題解決のために活動している」（37.1%）、「経理が明瞭である」（32.3%）、「連絡手段がきちんとう意されている」（31.2%）となっている。

図9-23 活動を主催する団体に求めるもの

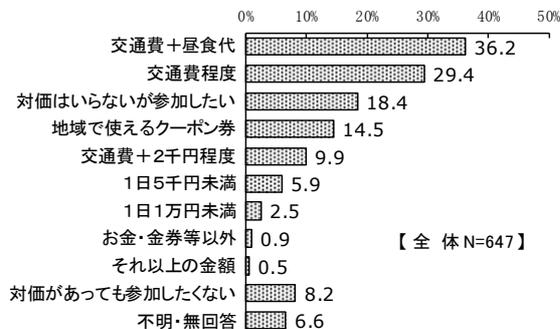


(17) どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

問22 あなたが、社会活動・地域活動をする場合、どのような対価があれば参加したいですか。（○は3つまで）

社会活動・地域活動をする場合にどのような対価があれば参加したいか尋ねたところ、「交通費+昼食代」が36.2%で最も高く、次いで「交通費程度」(29.4%)、「対価はいらないが参加したい」(18.4%)となっている。

図9-24 どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか

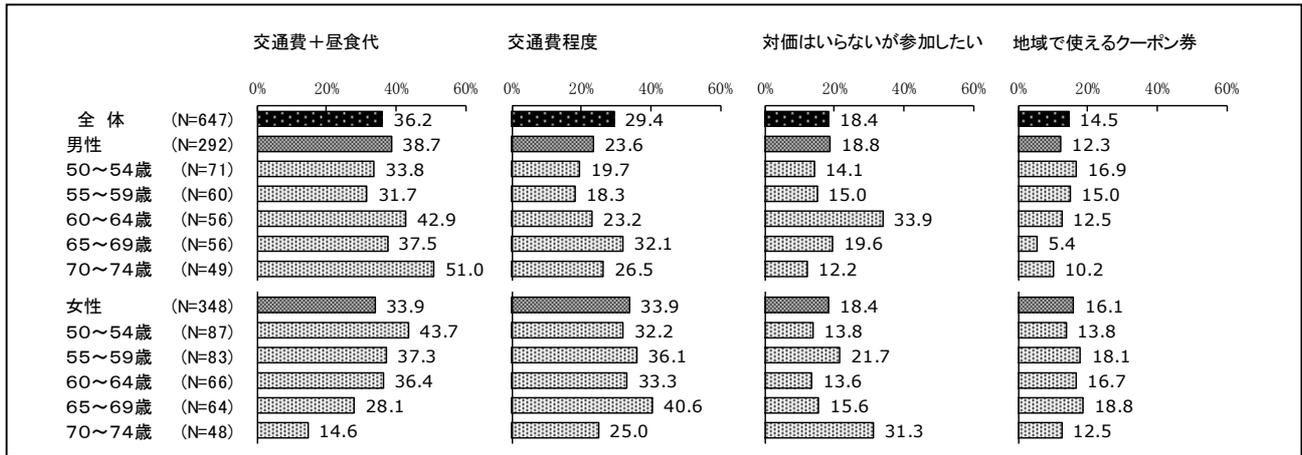


上位4項目について性・年代別にみると、「交通費+昼食代」では「男性」(38.7%)が「女性」(33.9%)よりも5ポイント高く、「男性70～74歳」が5割を超えているほか、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「交通費程度」では「女性」(33.9%)が「男性」(23.6%)よりも10ポイント高く、「女性65～69歳」が4割を超えて最も高くなっている。

そのほか、「対価はいらぬが参加したい」では「男性60～64歳」と「女性70～74歳」が3割台で他の年代よりも高くなっている。

図9-25 どのような対価があれば社会活動・地域活動に参加したいか（性・年代別）  
—上位4項目—

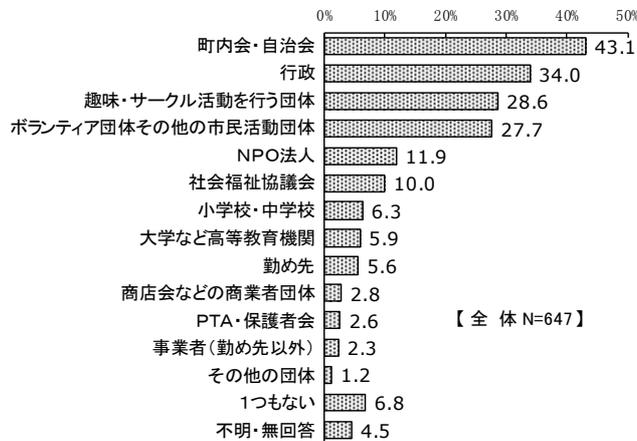


(18) どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか

問23 あなたは、今後、どのような団体が主催する社会活動・地域活動であれば参加したいと思いますか。（〇は3つまで）

今後、どのような団体が主催する社会活動・地域活動であれば参加したいか尋ねたところ、「町内会・自治会」が43.1%で最も高く、次いで「行政」(34.0%)、「趣味・サークル活動を行う団体」(28.6%)、「ボランティア団体その他の市民活動団体」(27.7%)となっている。

図9-26 どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか



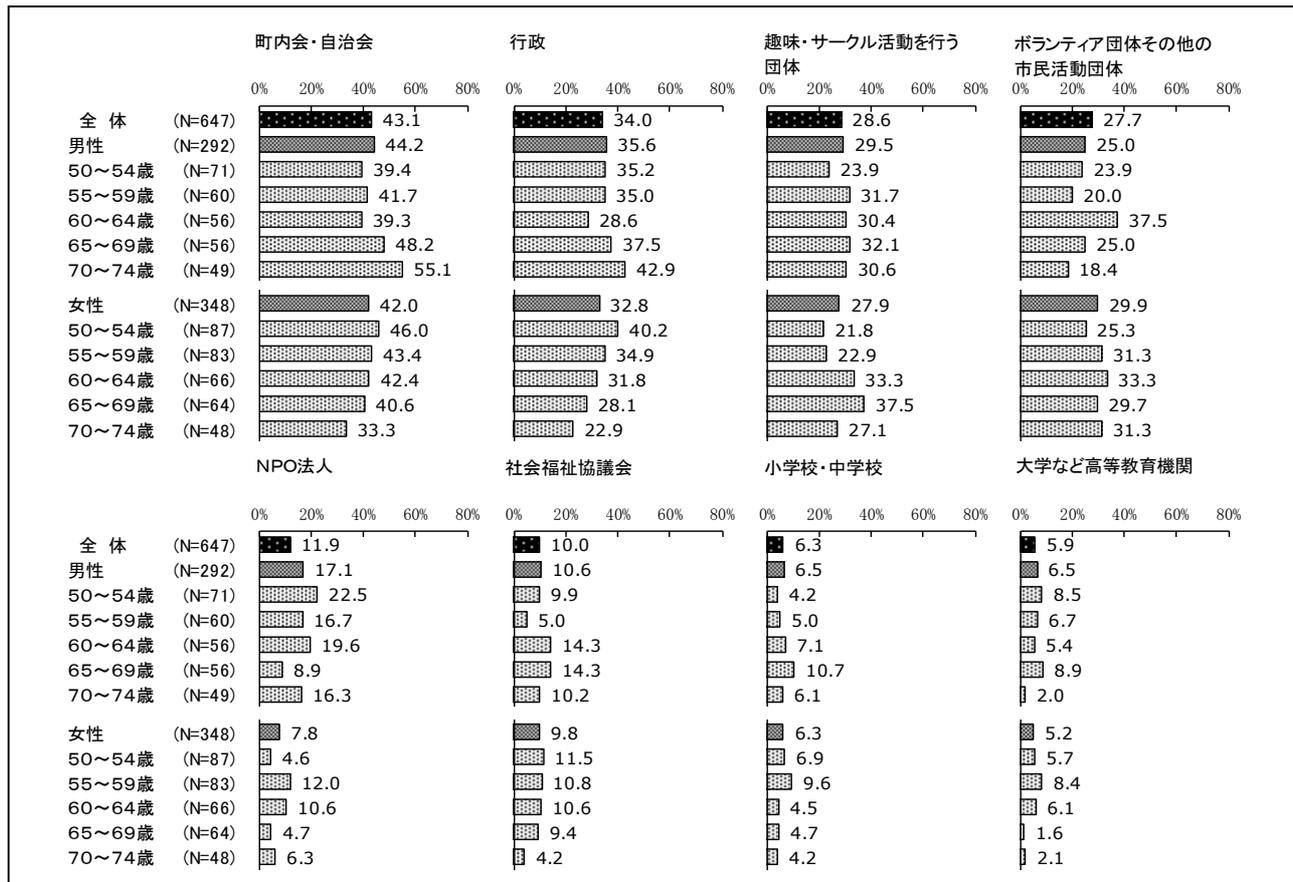
第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「町内会・自治会」と「行政」の上位2項目では、男性は概ね年代が上がるにつれて割合が高くなり、反対に女性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「趣味・サークル活動を行う団体」では女性60代が3割台半ばで他の年代よりも高くなっている。

そのほか、「ボランティア団体その他の市民活動団体」では「男性60～64歳」が37.5%で最も高くなっている。

図9-27 どのような団体が主催する社会活動・地域活動に参加したいか（性・年代別）  
—上位8項目—

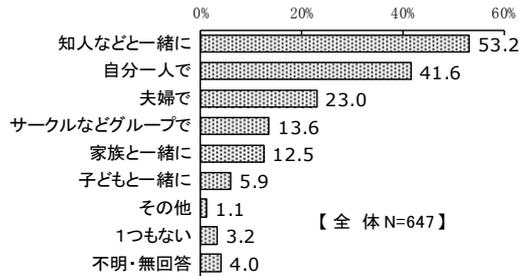


(19) 誰と一緒に社会活動・地域活動に参加しやすいか

問24 あなたが、社会活動・地域活動へ参加する場合、誰と一緒に参加しやすいと思いますか。  
 (○はいくつでも)

社会活動・地域活動へ参加する場合に誰と一緒に参加しやすいか尋ねたところ、「知人などと一緒に」が53.2%で最も高く、次いで「自分一人で」(41.6%)、「夫婦で」(23.0%)、「サークルなどグループで」(13.6%)、「家族と一緒に」(12.5%)となっている。

図9-28 誰と一緒に社会活動・地域活動に参加しやすいか

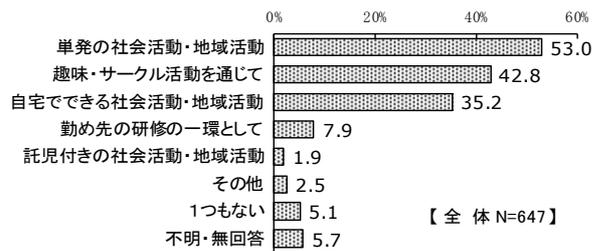


(20) 参加しやすい社会活動・地域活動

問25 あなたは、どのような社会活動・地域活動であれば参加しやすいと思いますか。  
 (○は3つまで)

どのような社会活動・地域活動であれば参加しやすいか尋ねたところ、「単発の社会活動・地域活動」が53.0%で最も高く、次いで「趣味・サークル活動を通じて」(42.8%)、「自宅でできる社会活動・地域活動」(35.2%)となっている。

図9-29 参加しやすい社会活動・地域活動

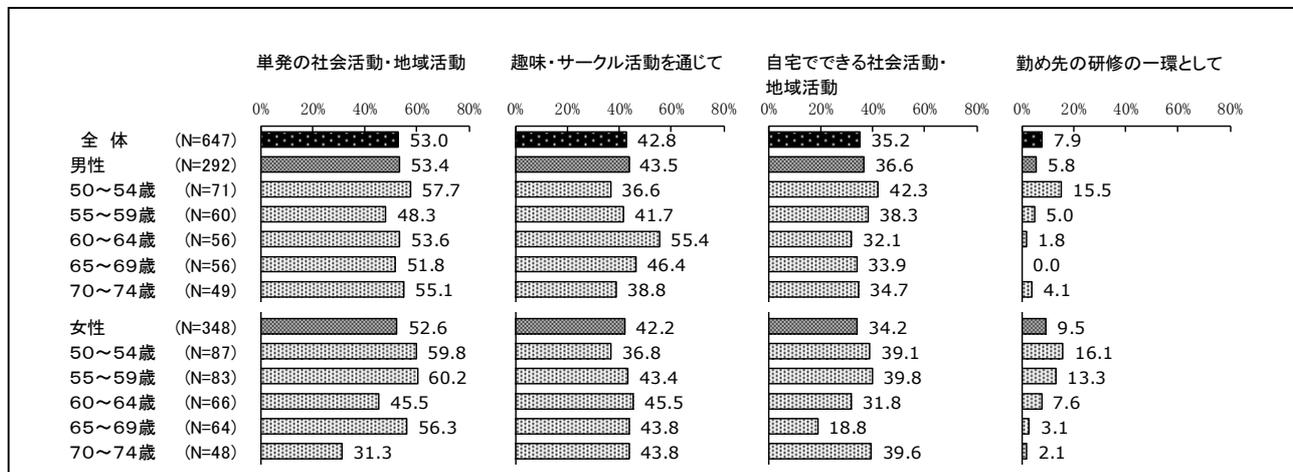


第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

上位4項目について性・年代別にみると、「単発の社会活動・地域活動」では女性50代が6割前後で他の年代よりも高くなっている。

「趣味・サークル活動を通じて」では「男性60～64歳」が55.4%で最も高くなっている。また、「自宅でできる社会活動・地域活動」では男女とも50代で4割前後と高くなっている。

図9-30 参加しやすい社会活動・地域活動（性・年代別）—上位4項目—

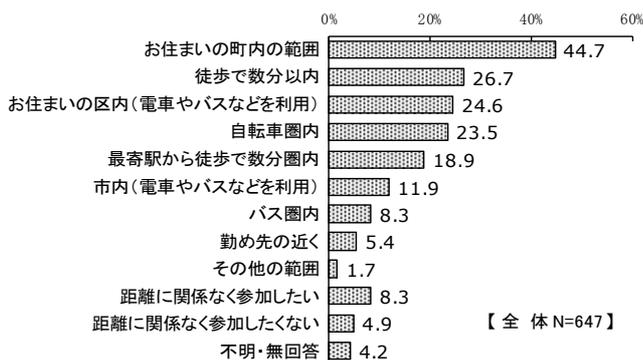


(21) 参加しやすい活動範囲

問26 あなたが参加しやすい活動範囲は、次のどれですか。（○はいくつでも）

参加しやすい活動範囲は、「お住まいの町内の範囲」が44.7%で最も高く、次いで「徒歩で数分以内」(26.7%)、「お住まいの区内（電車やバスなどを利用）」(24.6%)、「自転車圏内」(23.5%)となっている。

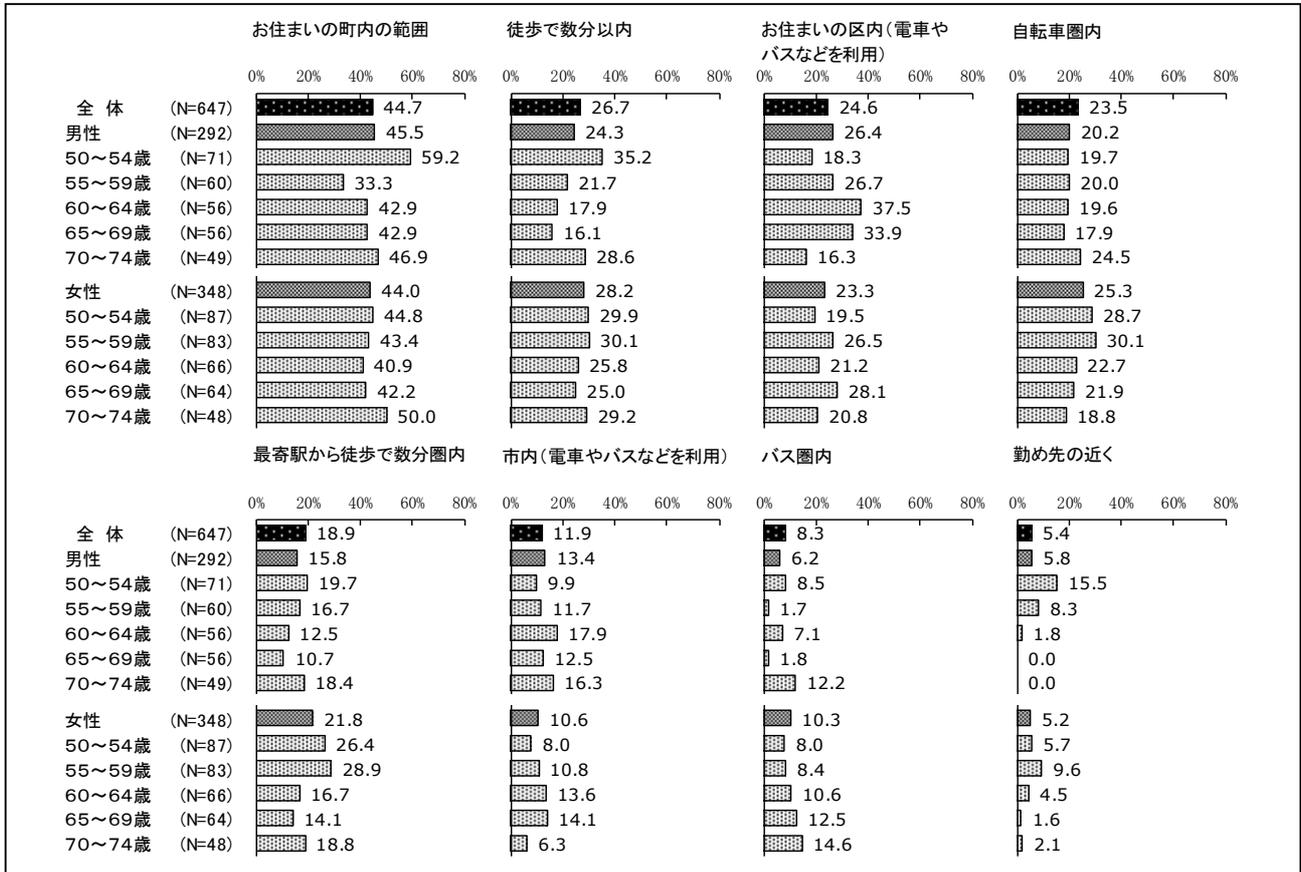
図9-31 参加しやすい活動範囲



上位8項目について性・年代別にみると、「お住まいの町内の範囲」と「徒歩で数分以内」の上位2項目では、「男性50～54歳」が最も高くなっている。

また、「お住まいの区内（電車やバスなどを利用）」では男性60代が、「自転車圏内」と「最寄駅から徒歩で数分圏内」では女性50代が、他の年代よりも高くなっている。

図9-32 参加しやすい活動範囲（性・年代別）—上位8項目—

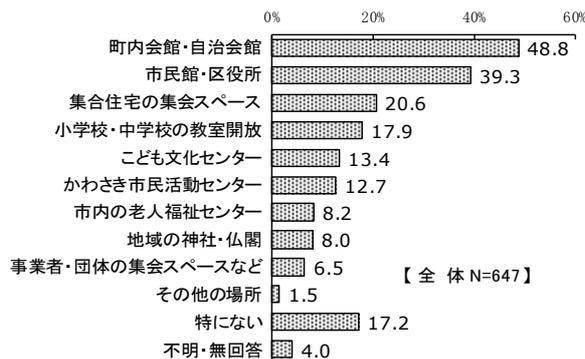


(22) 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所

問27 あなたが、地域で活動を行う場合に、気軽に使える場所は次のどれですか。  
(○はいくつでも)

地域で活動を行う場合に気軽に使える場所を尋ねたところ「町内会館・自治会館」が48.8%で最も高く、次いで「市民館・区役所」(39.3%)、「集合住宅の集会スペース」(20.6%)、「小学校・中学校の教室開放」(17.9%)となっている。

図9-33 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所



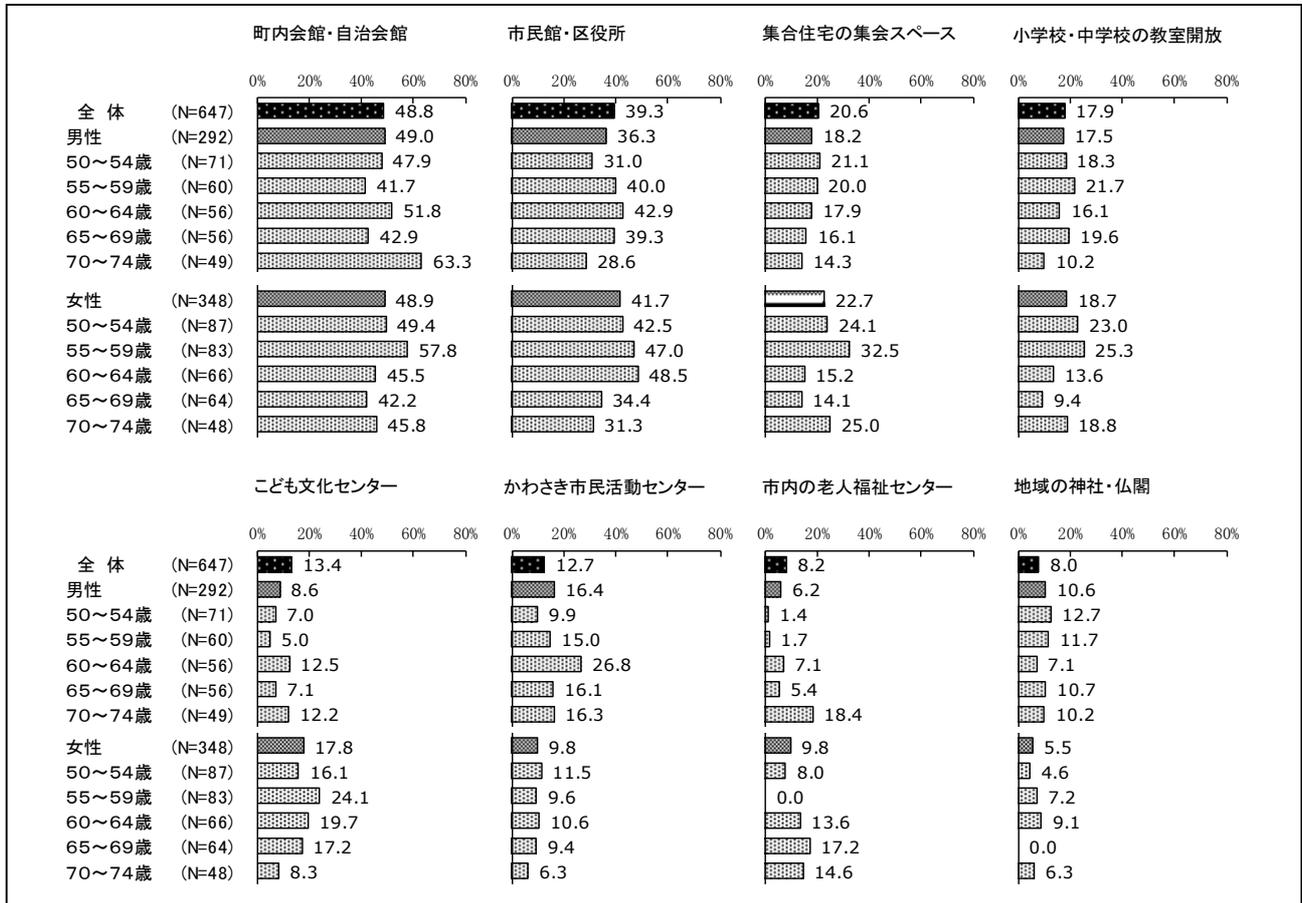
第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

上位8項目について性・年代別にみると、「町内会館・自治会館」では「男性70～74歳」が63.3%で最も高く、「女性55～59歳」が57.8%で続いている。

「市民館・区役所」では男女ともに「60～64歳」が最も高くなっている。

また、女性は「町内会館・自治会館」、「市民館・区役所」、「集合住宅の集会スペース」、「小学校・中学校の教室開放」の上位4項目において50代の割合が高い傾向がみられる。

図9-3-4 地域で活動を行う場合に気軽に使える場所（性・年代別）—上位8項目—

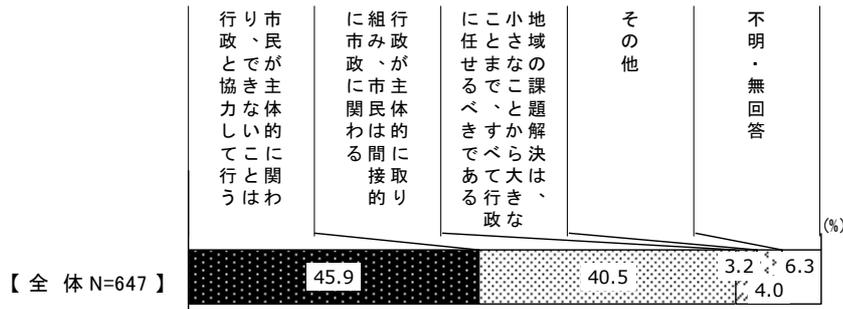


(23) 今後の社会において市民が果たすべき役割

問28 あなたは、今後の社会において地域を暮らしやすくしていくために、市民としてどのような役割を果たしていくべきだと思いますか。（〇は1つ）

今後の社会において地域を暮らしやすくしていくために市民が果たすべき役割については、「市民が主体的に関わり、できないことは行政と協力して行う」が45.9%、5ポイント差で「行政が主体的に取り組み、市民は間接的に市政に関わる」（40.5）となっている。

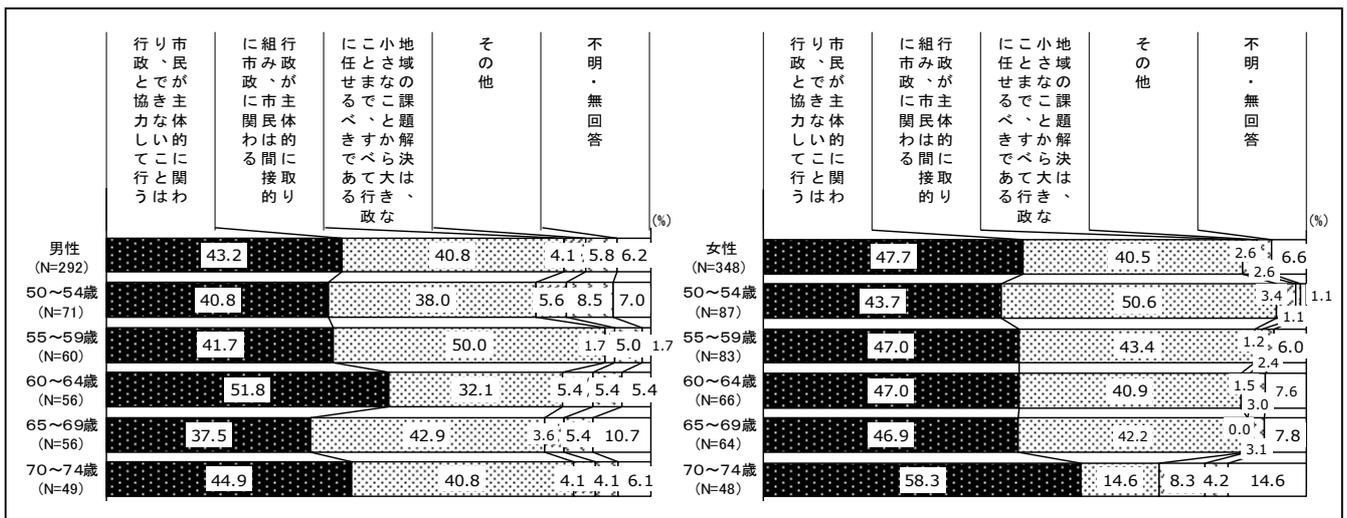
図9-35 今後の社会において市民が果たすべき役割



性・年代別にみると、「市民が主体的に関わり、できないことは行政と協力して行う」では「女性」（47.7%）が「男性」（43.2%）よりも5ポイント高くなっており、男性は「60～64歳」、女性は「70～74歳」が5割台で高くなっている。

一方で、「行政が主体的に取り組み、市民は間接的に市政に関わる」では、「男性」（40.8%）と「女性」（40.5%）でほぼ同じ割合となっているが、男性は「60～64歳」が3割台前半、女性は「70～74歳」が1割代半ばと、相対的に割合が低くなっている。

図9-36 今後の社会において市民が果たすべき役割（性・年代別）



(24) 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目【平成16年度調査 経年比較】

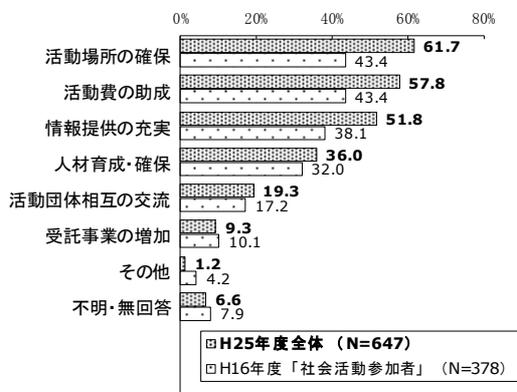
問29 公益性が高い社会活動・地域活動に対して、行政が支援すべきだと思う項目はどれですか。（〇はいくつでも）

公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目は、「活動場所の確保」が61.7%で最も高く、次いで「活動費の助成」(57.8%)、「情報提供の充実」(51.8%)、「人材育成・確保」(36.0%)となっている。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、調査聴取の対象者が異なる（※）ものの、順位は変わらず、上位3項目については14ポイント以上上昇している。

※ 平成16年度調査では、社会活動への参加者に対して質問しているのに対し、本調査では、社会活動・地域活動への参加の有無を問わず全員に質問している。

図9-37 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目

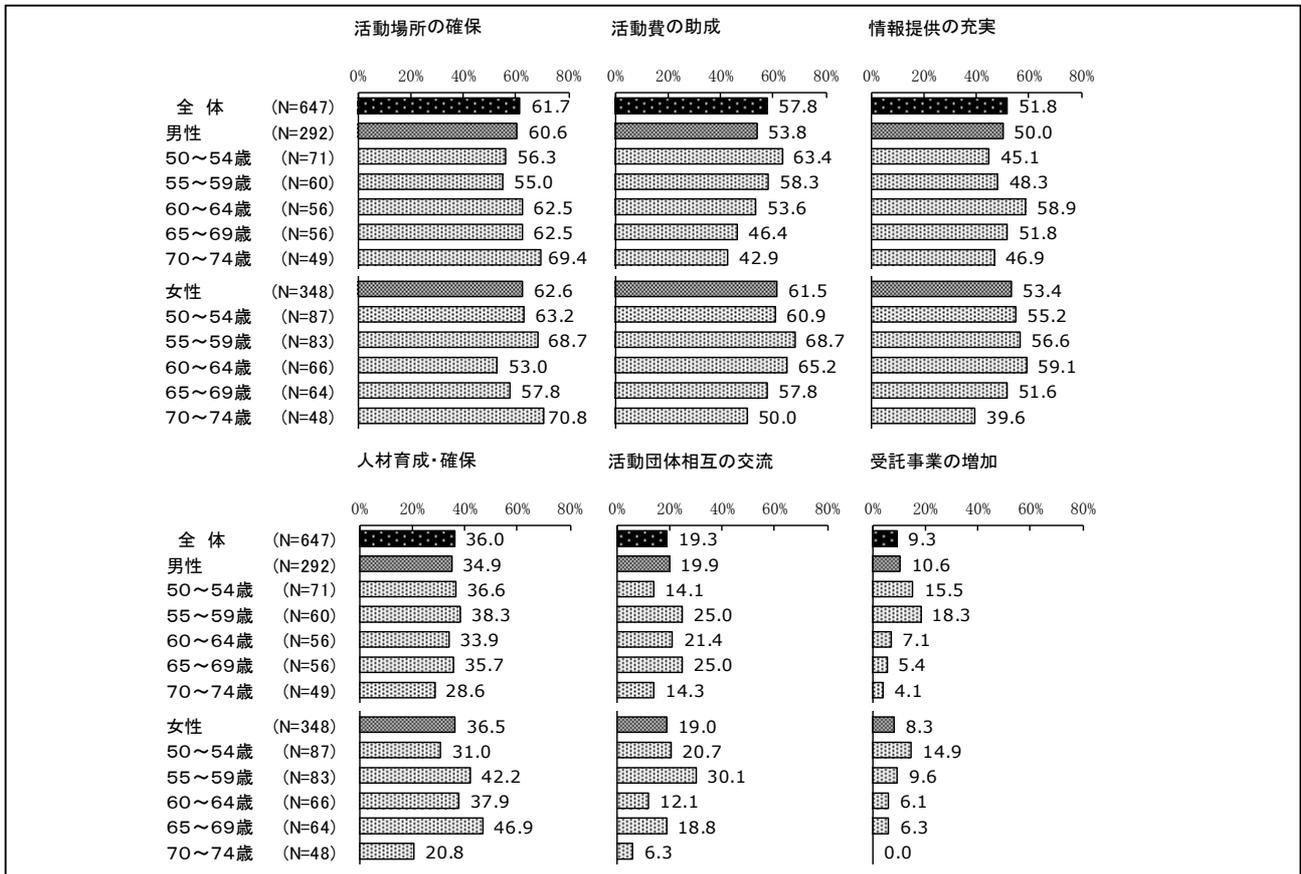


上位6項目について性・年代別にみると、「活動場所の確保」では男性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、女性は50代で6割台、70代では7割台と高くなっている。

また、「活動費の助成」では男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。そのほか、「情報提供の充実」では男女ともに「60～64歳」が他の年代よりも高くなっている。

図9-38 公益性の高い社会活動・地域活動に対して行政が支援すべき項目（性・年代別）

—上位6項目—



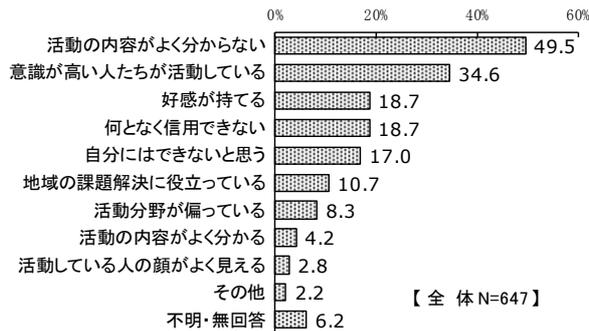
## 5 NPO法人などの市民活動団体への認識（50～74歳調査）

### （1）NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象

問30 あなたは、NPO法人などの市民活動団体の活動全般について、どのような印象を持っていますか。（〇はいくつでも）

NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象は、「活動の内容がよく分からない」が49.5%で最も高く、次いで「意識が高い人たちが活動している」（34.6%）、「好感が持てる」（18.7%）、「何となく信用できない」（18.7%）、「自分にはできないと思う」（17.0%）となっている。

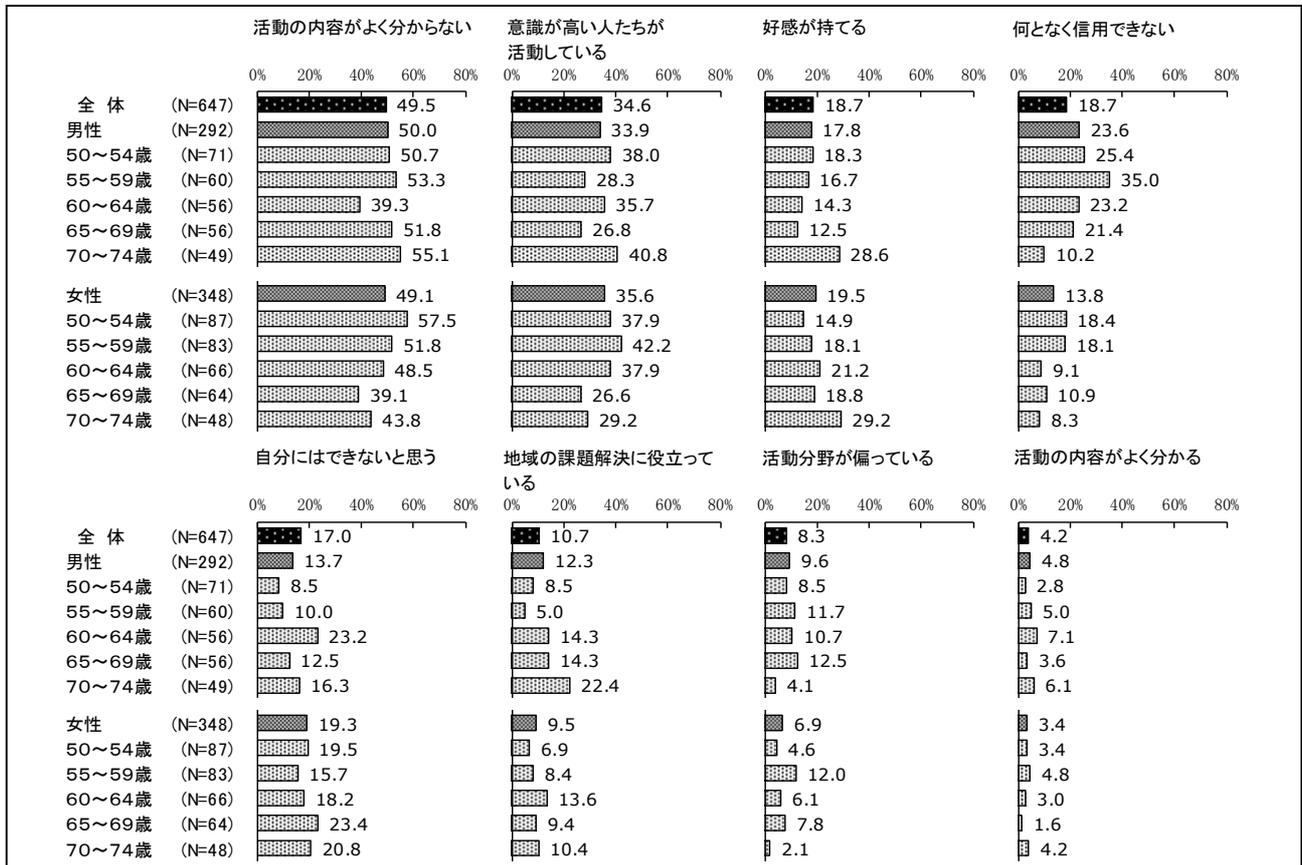
図10-1 NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象



上位8項目について性・年代別にみると、「活動の内容がよく分からない」では「男性70～74歳」と「女性50～54歳」が5割台半ばで他の年代よりも高くなっている。

また、「好感が持てる」では男女ともに「70～74歳」が最も高く、女性は概ね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。

図10-2 NPO法人など市民活動団体の活動全般についての印象（性・年代別）—上位8項目—

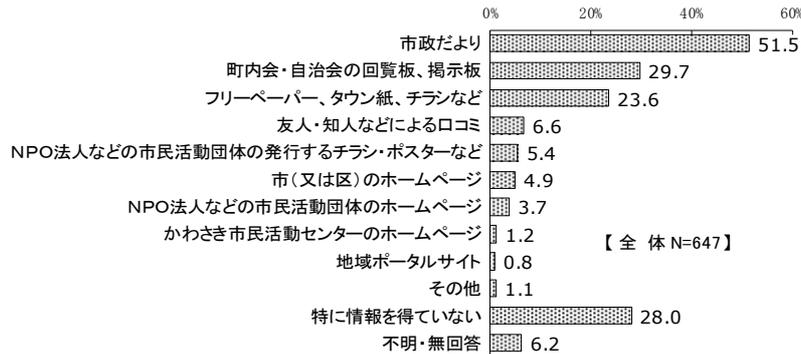


(2) NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先

問31 NPO法人などの市民活動団体に関する情報を、主にどのような媒体を通じて得ていますか。(〇は3つまで)

NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先は、「市政だより」が51.5%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板、掲示板」(29.7%)、「フリーペーパー、タウン紙、チラシなど」(23.6%)となっている。

図10-3 NPO法人など市民活動団体に関する情報の入手先



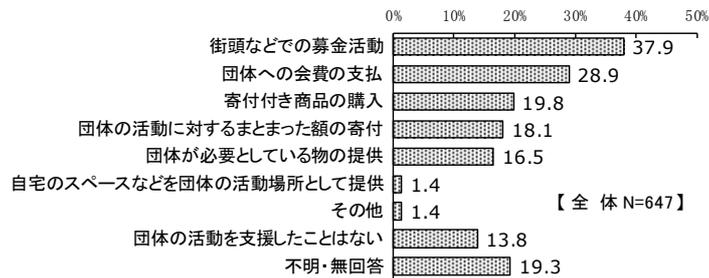
6 寄付などによる団体の活動の支援（50～74歳調査）

(1) 行った経験のある団体の活動への支援

問32 (ア) 以下のA～Hのような団体の活動への支援で、あなたがこれまでに行った経験があるものはどれですか。(〇はいくつでも)

寄付などによる団体の活動への支援で、これまでに行った経験があるものについては、「街頭などでの募金活動」が37.9%で最も高く、次いで「団体への会費の支払」(28.9%)となっている。

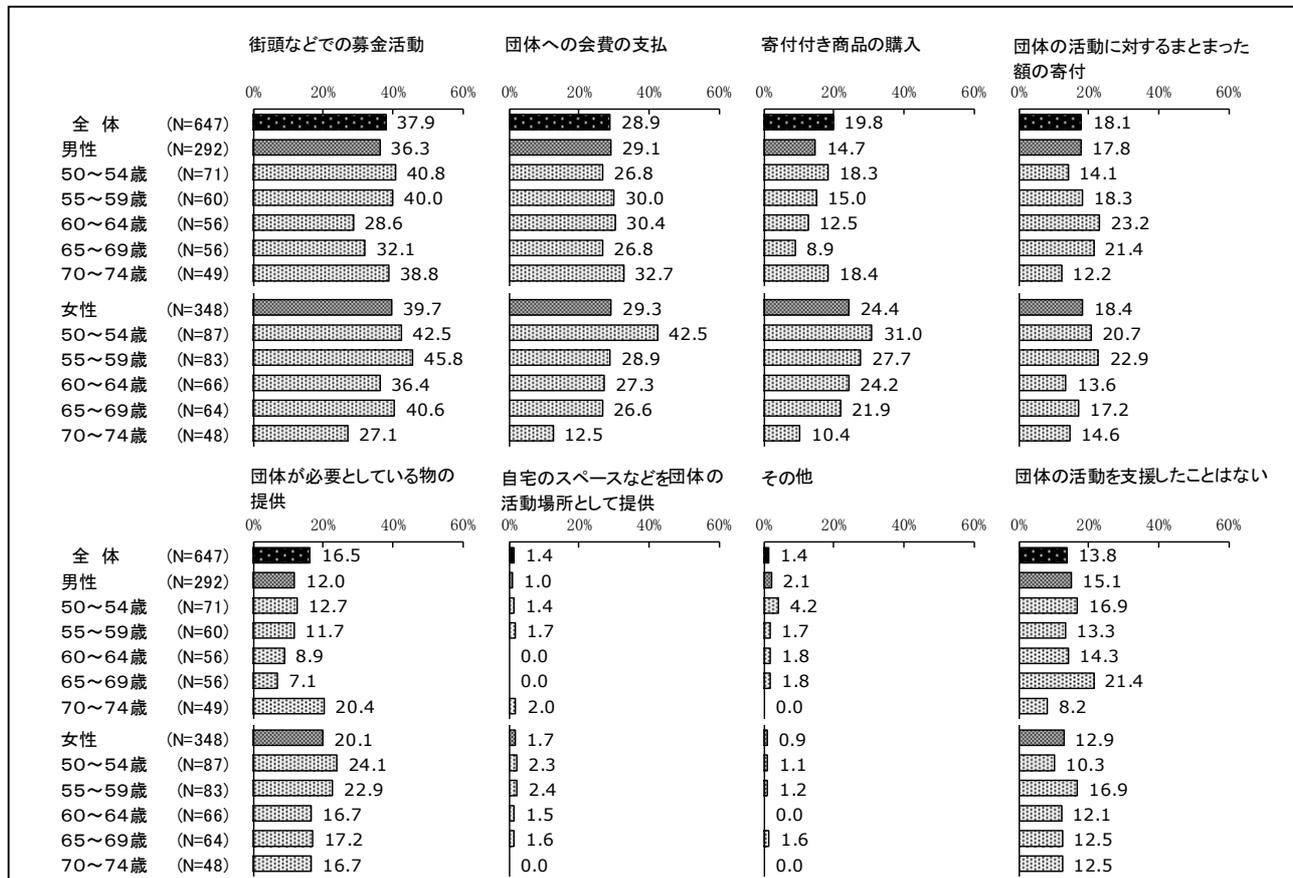
図11-1 行った経験のある団体の活動への支援



第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

性・年代別にみると、「街頭などでの募金活動」では男女ともに50代が高くなっている。  
 また、「団体への会費の支払」では「女性50～54歳」が42.5%で最も高くなっている。  
 そのほか、「寄付付き商品の購入」では男女ともに概ね年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

図11-2 行った経験のある団体の活動への支援（性・年代別）

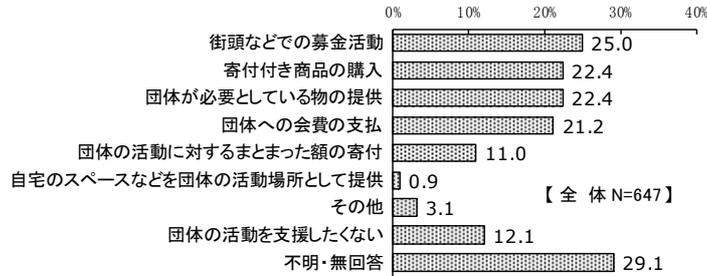


(2) 今後行いたい団体の活動への支援

問32 (イ) また、今後、行いたい団体の活動への支援はどれですか。(〇はいくつでも)

今後行いたい団体の活動への支援は、「街頭などでの募金活動」が25.0%で最も高く、次いで「寄付付き商品の購入」(22.4%)、「団体が必要としている物の提供」(22.4%)、「団体への会費の支払」(21.2%)となっている。

図 1 1 - 3 今後行いたい団体の活動への支援

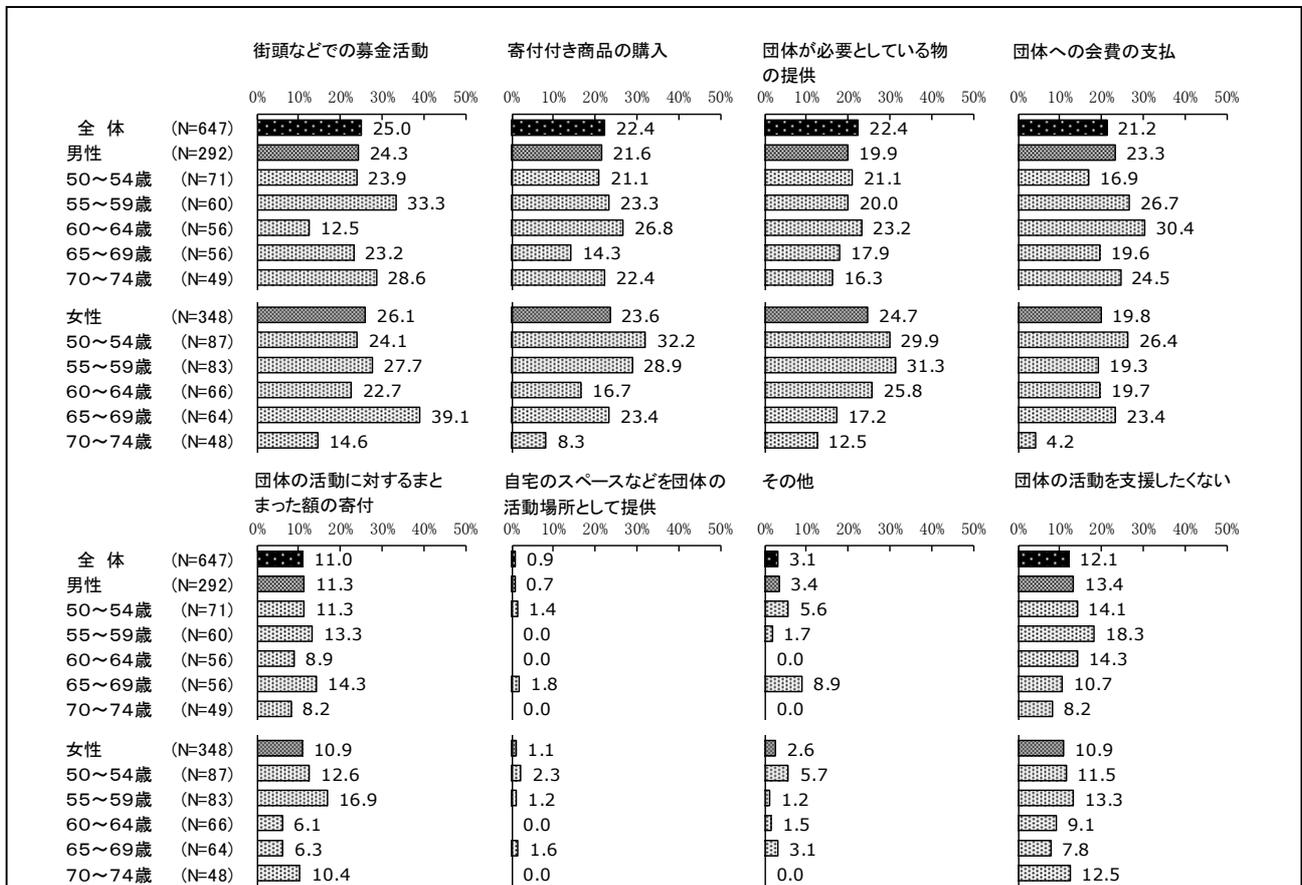


性・年代別にみると、「街頭などでの募金活動」では「男性55～59歳」と「女性65～69歳」が3割台で高くなっている。

また、「寄付付き商品の購入」では、女性50代が他の年代よりも高くなっている。

そのほか、「団体が必要としている物の提供」では概ね女性の年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

図 1 1 - 4 今後行いたい団体の活動への支援（性・年代別）



## 7 仕事（50～74歳調査）

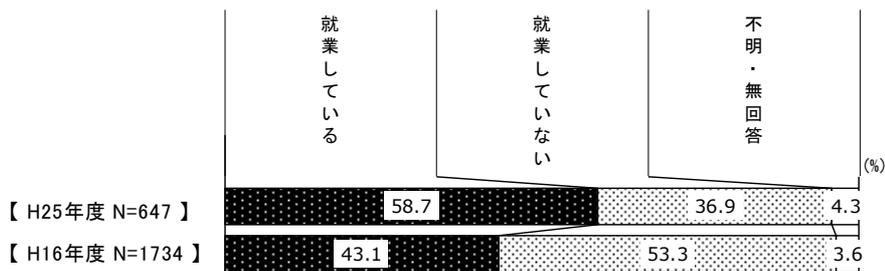
### （1）就業状況

【平成16年度調査 経年比較】

問33 あなたの就業状況はどれにあてはまりますか。  
 (ア) 就業状況 (○は1つ)

就業状況は、「就業している」が58.7%を占め、「就業していない」は36.9%となっている。  
 平成16年度調査（P63参照）と比較すると、就業率は16ポイント上昇している。

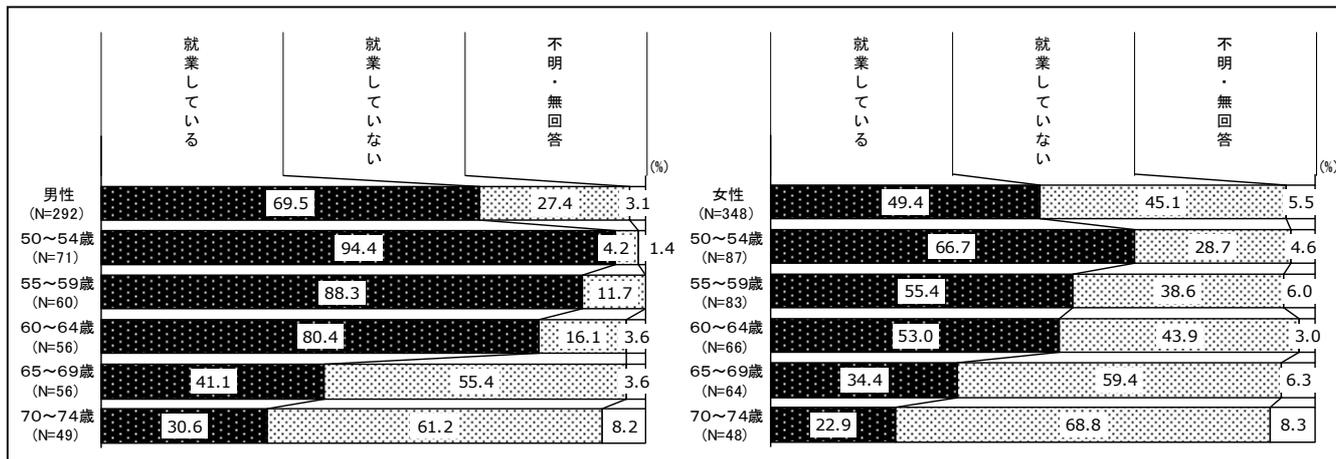
図12-1 就業状況



性・年代別にみると、「就業している」割合は「男性」（69.5%）が「女性」（49.4%）よりも20ポイント高くなっている。

また、男女ともに年代が上がるにつれて就業率が低くなる傾向がみられ、男性は「50～64歳」の8割以上が「就業している」と回答している。

図12-2 就業状況（性・年代別）



(2) 就業形態

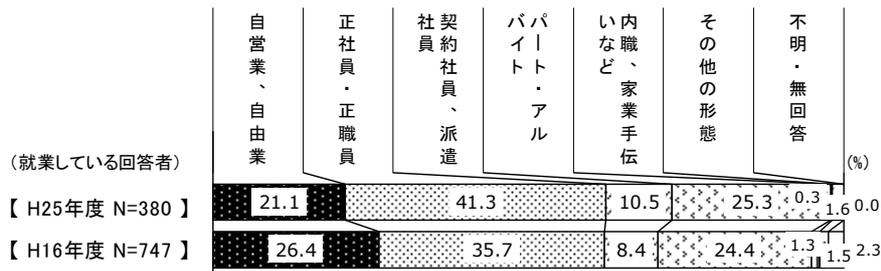
【平成16年度調査 経年比較】

問33 あなたの就業状況はどれにあてはまりますか。  
 (イ) 就業の形態 (○は1つ)  
 ※就業している回答者が対象

就業していると回答した人に就業形態を尋ねたところ、「正社員・正職員」が41.3%で最も高くなっている。

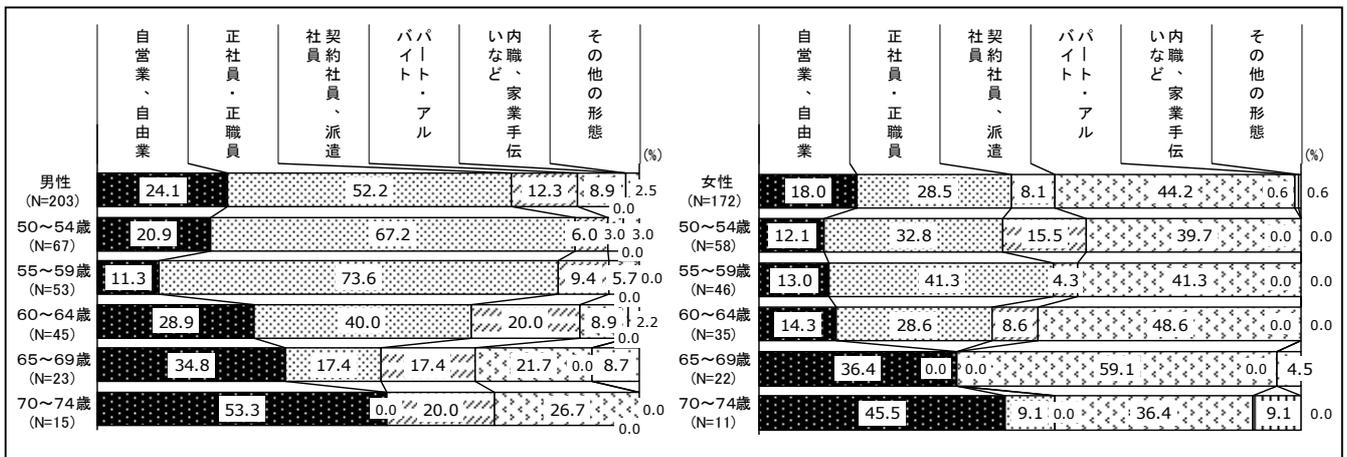
平成16年度調査（P63参照）と比較すると、「自営業、自由業」が5ポイント下降し、「正社員・正職員」が6ポイント上昇している。

図12-3 就業形態



性・年代別にみると、男性では52.2%が「正社員・正職員」、女性では44.2%が「パート・アルバイト」となっている。

図12-4 就業形態（性・年代別）



（3）仕事をしている主な目的

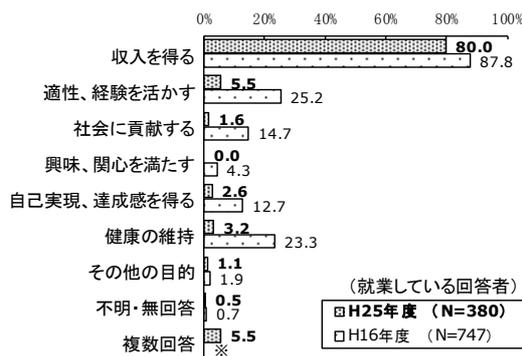
【平成16年度調査 経年比較】

問34 現在仕事をしている主な目的は何ですか。（○は1つ）  
 ※就業している回答者が対象

就業していると回答した人に仕事をしている主な目的を尋ねたところ、「収入を得る」が80.0%で最も高くなっている。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、平成16年度では3つまでの複数回答可としているため数値に差はあるものの、順位に大きな差はみられない。

図12-5 仕事をしている主な目的



※：複数の選択肢に回答があったもの(平成25年度のみ)

（4）就労時間

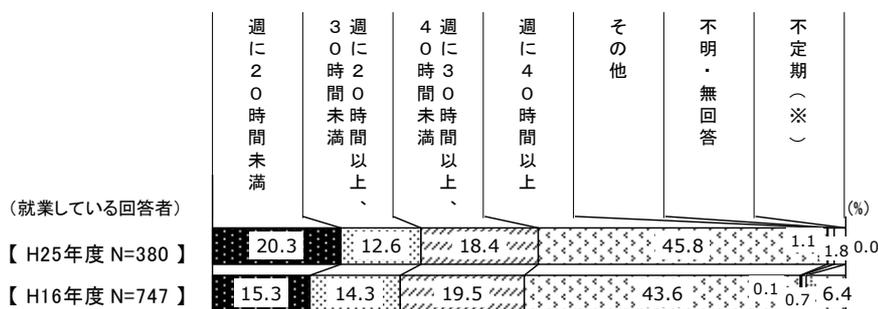
【平成16年度調査 経年比較】

問35 1週間の就労時間はどのくらいですか。（○は1つ）  
 ※就業している回答者が対象

就業していると回答した人に1週間の就労時間を尋ねたところ、「週に40時間以上」が45.8%で最も高くなっている。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、「週に20時間未満」が5ポイント上昇している。

図12-6 就労時間



※：平成25年度調査では聴取していない

(5) 定年の有無

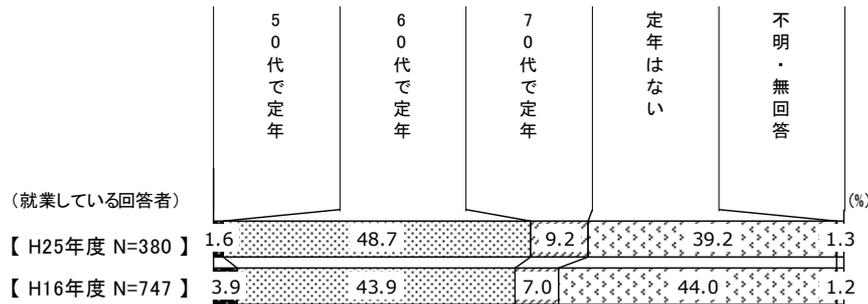
【平成16年度調査 経年比較】

問36 現在の仕事には定年がありますか。(○は1つ)  
 ※就業している回答者が対象

就業していると回答した人に定年の有無を尋ねたところ、「60代で定年」が48.7%で最も高く、次いで「定年はない」が39.2%となっている。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、「60代で定年」が5ポイント上昇し、「定年はない」が5ポイント下降している。

図12-7 定年の有無

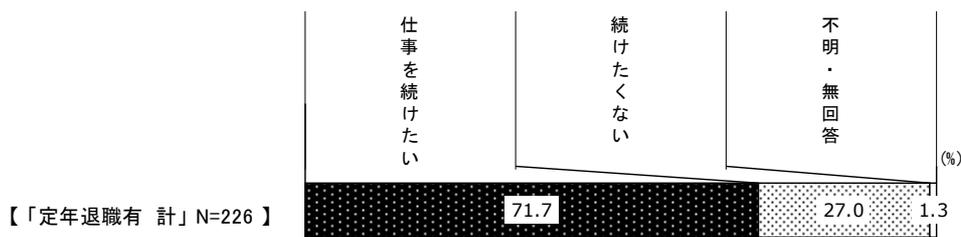


(6) 定年退職後の就業継続意向

問37 (ア) 定年退職後、仕事を続けたいですか。(○は1つ)  
 ※定年退職有の回答者が対象

定年があると回答した人に、定年退職後、仕事を続ける意向があるか尋ねたところ、71.7%が「仕事を続けたい」と回答している。

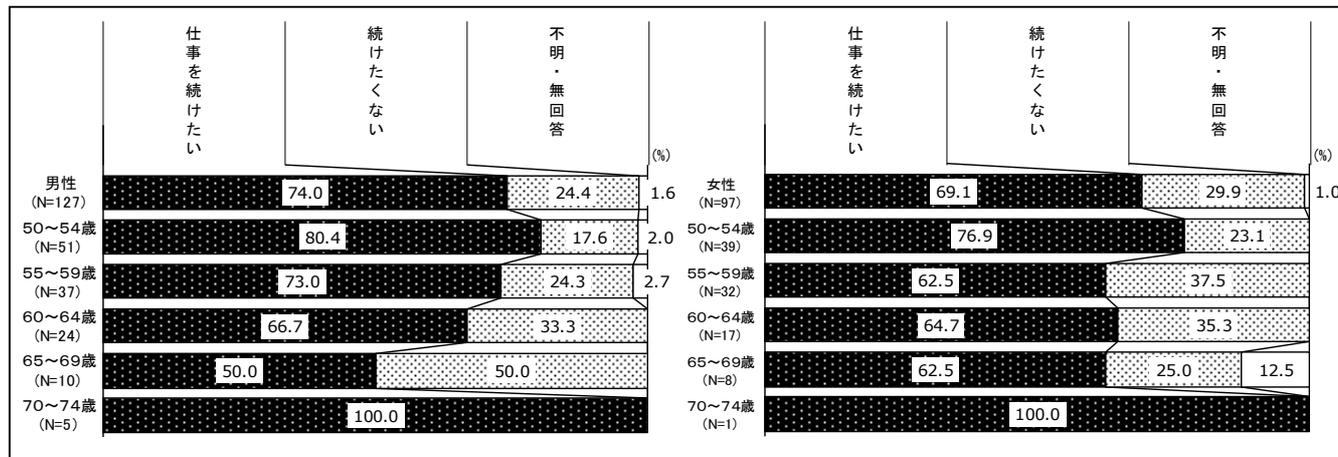
図12-8 定年退職後の就業継続意向



第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

性・年代別にみると、「仕事を続けたい」割合では「男性」（74.0%）が「女性」（69.1%）よりも5ポイント高い。

図12-9 定年退職後の就業継続意向（性・年代別）

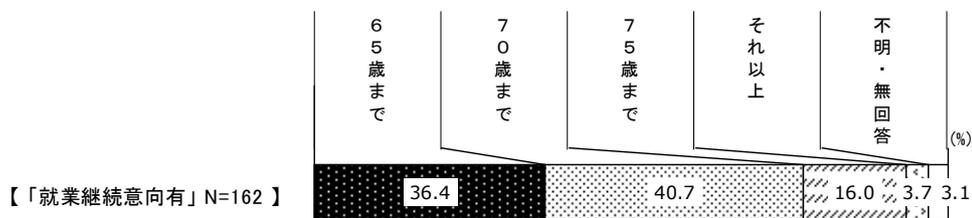


(7) 就業を継続したい期間

問37 (イ) 続けたい方は、何歳まで続けたいですか。(〇は1つ)  
 ※定年退職後就業継続意向有の回答者が対象

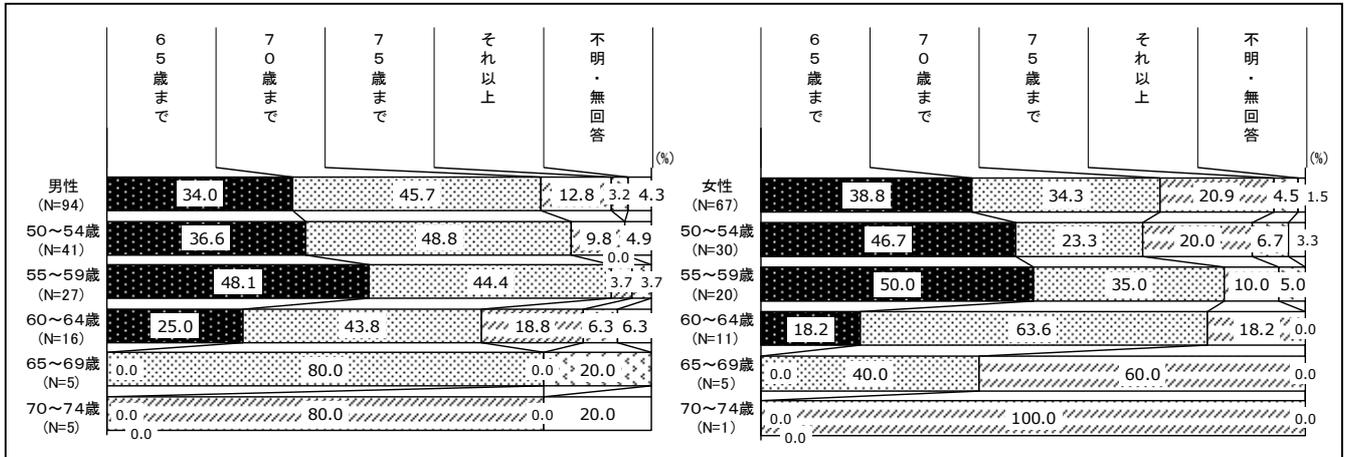
定年退職後、仕事を続ける意向があると回答した人に、何歳まで続けたいか尋ねたところ、「70歳まで」が40.7%で最も高くなっている。

図12-10 就業を継続したい期間



性・年代別にみると、「65歳まで」では「女性」（38.8%）が「男性」（34.0%）よりも5ポイント高く、「70歳まで」では「男性」（45.7%）が「女性」（34.3%）よりも11ポイント高くなっている。

図12-11 就業を継続したい期間（性・年代別）

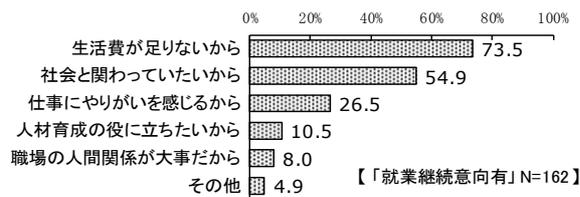


(8) 仕事を続けたい理由

問37 (ウ) 仕事を続けたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)  
※定年退職後就業継続意向有の回答者が対象

定年退職後、仕事を続ける意向があると回答した人に、その理由を尋ねたところ、「生活費が足りないから」が73.5%で最も高く、次いで「社会と関わってみたいから」(54.9%)、「仕事にやりがいを感じるから」(26.5%)、「人材育成の役に立ちたいから」(10.5%)、「職場の人間関係が大事だから」(8.0%)となっている。

図12-12 仕事を続けたい理由

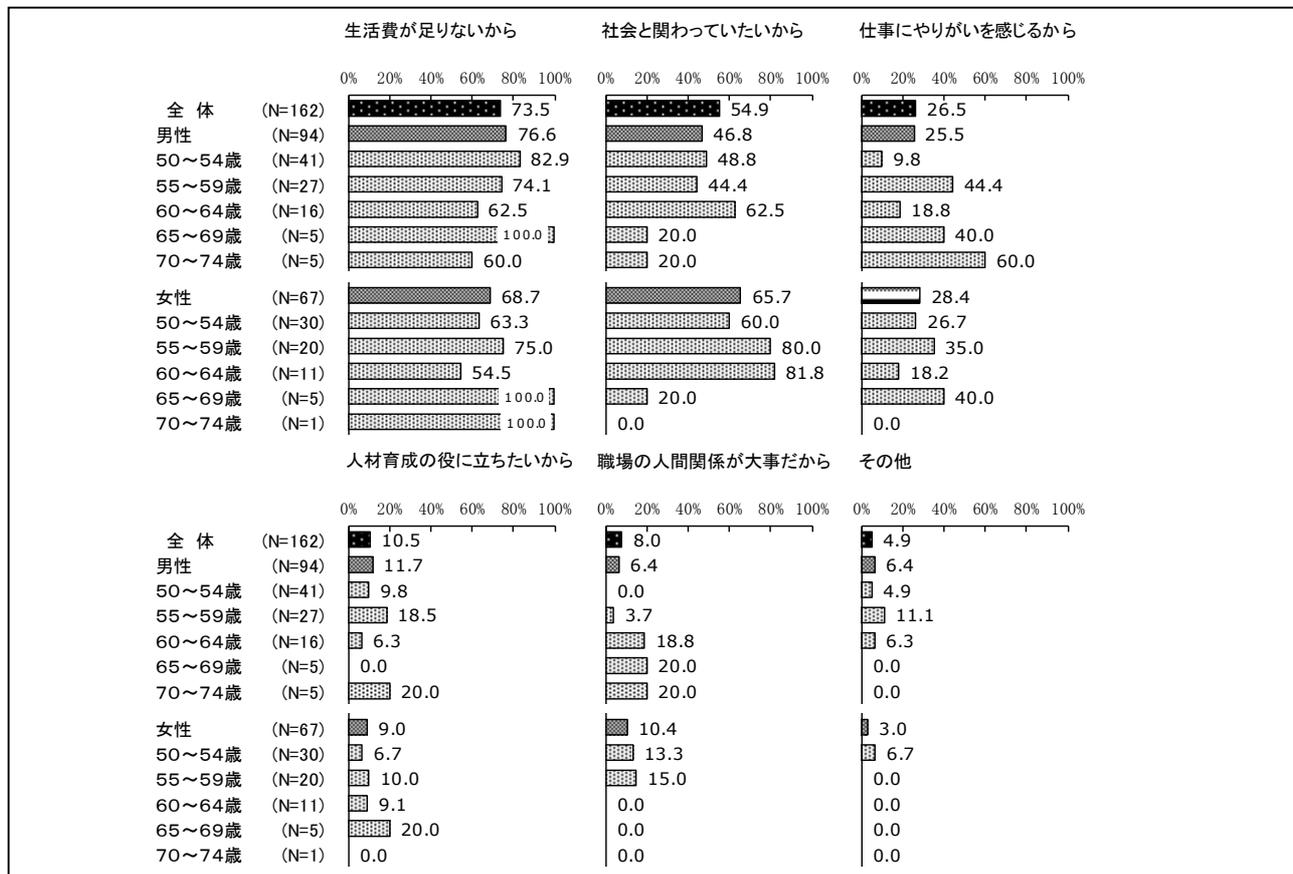


第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

性・年代別にみると、「生活費が足りないから」では「男性50～54歳」が82.9%で他の年代よりも高くなっている。

また、「社会と関わっていたいから」では「女性」（65.7%）が「男性」（46.8%）よりも19ポイント高くなっている。

図12-13 仕事を続けたい理由（性・年代別）

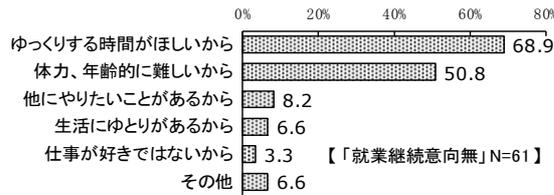


(9) 仕事を続けたくない理由

問37 (エ) 仕事を続けたくない理由は何ですか。(○はいくつでも)  
 ※定年退職後就業継続意向無の回答者が対象

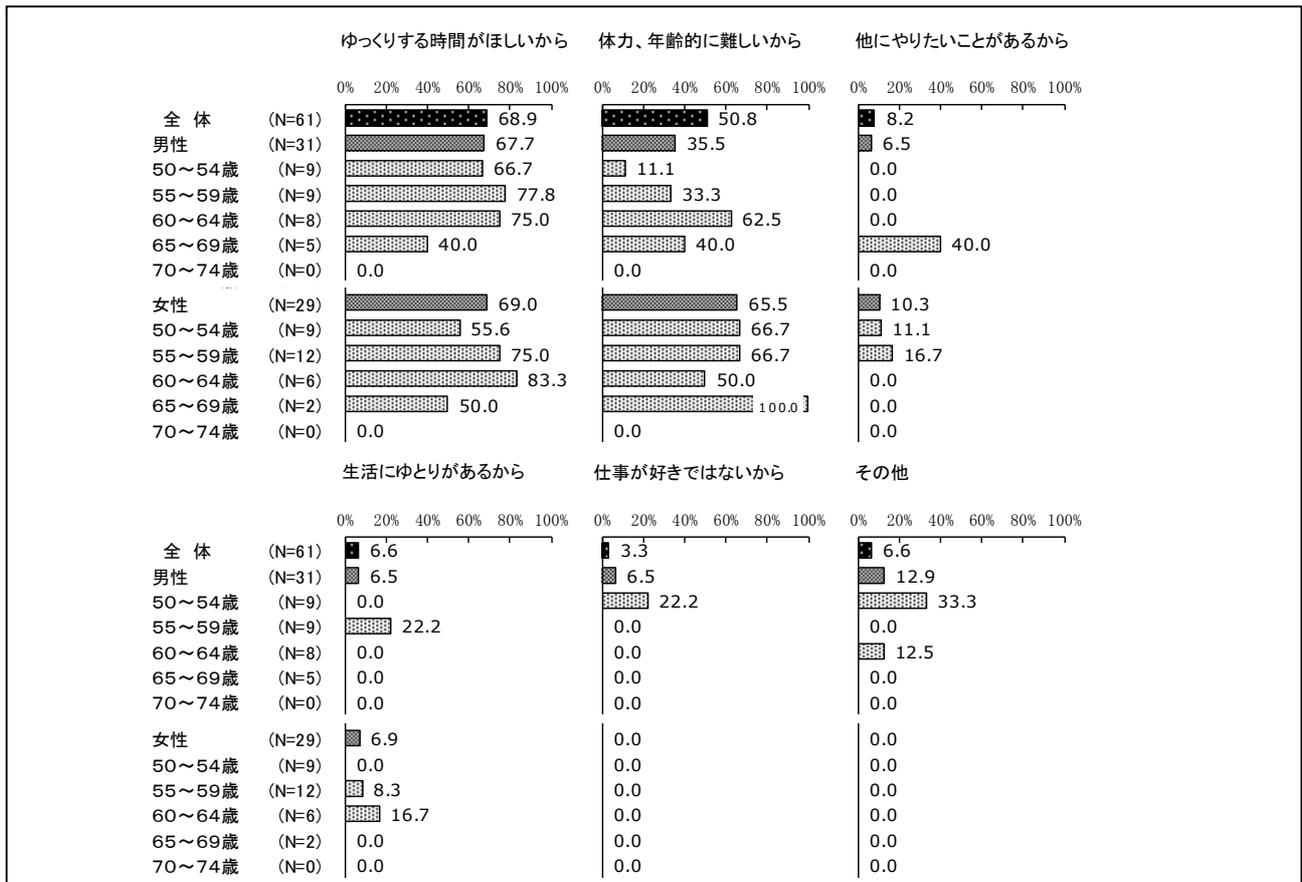
定年退職後、仕事を続ける意向はないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「ゆっくりする時間がほしいから」が68.9%で最も高く、次いで「体力、年齢的に難しいから」(50.8%)、「他にやりたいことがあるから」(8.2%)、「生活にゆとりがあるから」(6.6%)、「仕事が好きではないから」(3.3%) となっている。

図12-14 仕事を続けたくない理由



性・年代別にみると、「体力、年齢的に難しいから」では「女性」(65.5%)が「男性」(35.5%)よりも30ポイント高くなっている。

図12-15 仕事を続けたくない理由（性・年代別）



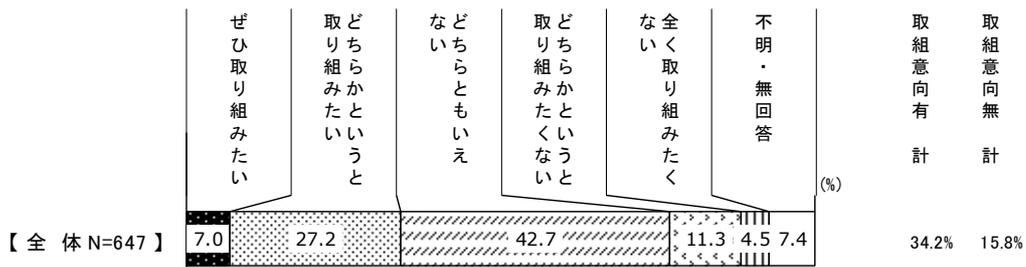
## 8 余暇・自由時間・趣味などに関する考え方（50～74歳調査）

### （1）自由時間が増えた場合の社会活動・地域活動への取組意向

問38 あなたは、定年退職や子育てが一段落したことなどにより、今よりも自由時間が増えた場合、社会活動・地域活動に取り組みたいですか。（○は1つ）

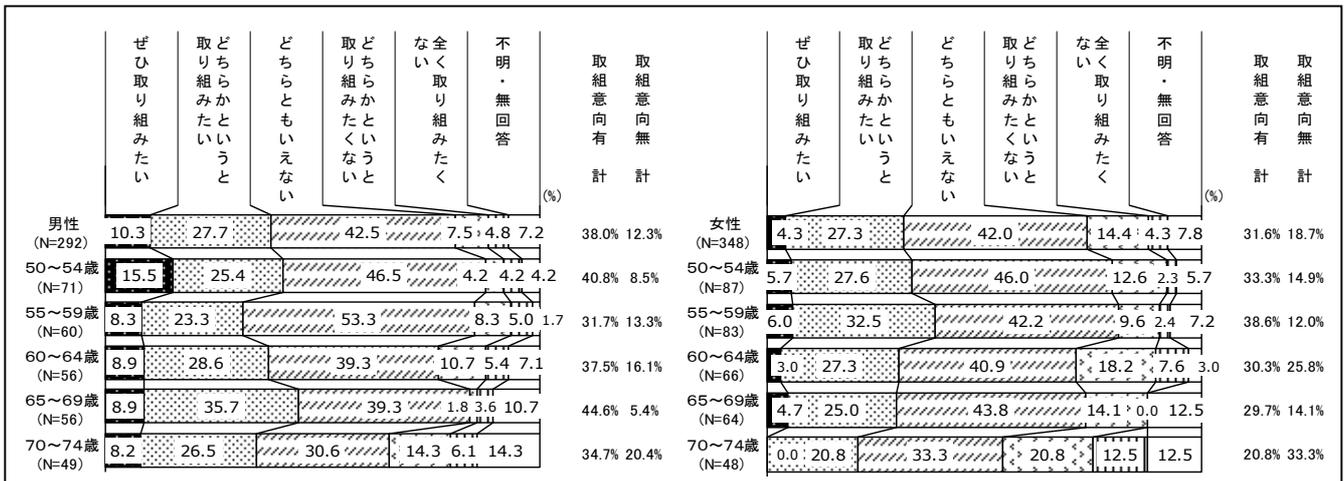
今よりも自由時間が増えた場合、社会活動・地域活動に取り組みたいか尋ねたところ、「どちらともいえない」が42.7%で最も高く、「ぜひ取り組みたい」（7.0%）と「どちらかという取り組みたい」（27.2%）をあわせた「取組意向有 計」は34.2%となっている。

図13-1 自由時間が増えた場合の社会活動・地域活動への取組意向



性・年代別にみると、「取組意向有 計」の割合では「男性」（38.0%）が「女性」（31.6%）よりも6ポイント高く、男性の「50～54歳」と「65～69歳」は4割を超えて他の年代よりも高くなっている。

図13-2 自由時間が増えた場合の社会活動・地域活動への取組意向（性・年代別）



（2）活動参加における重視項目

【平成16年度調査 経年比較】

問39 活動に参加する上で重視する項目は何ですか。（〇は3つまで）  
 ※取組意向有の回答者が対象

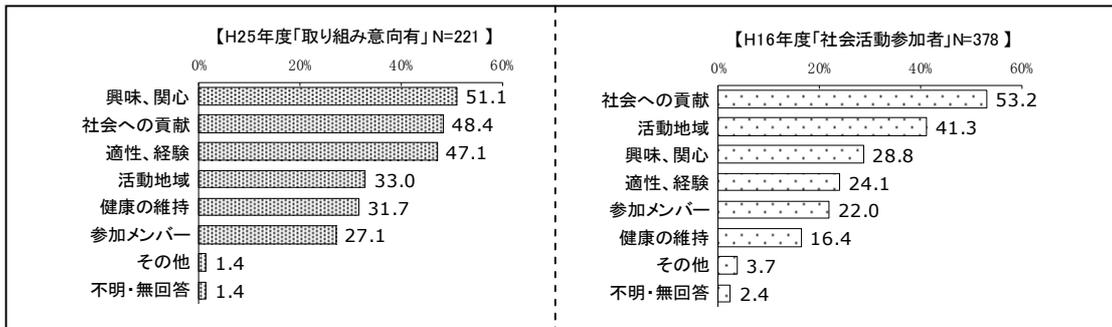
自由時間が増えた場合、社会活動・地域活動に取り組みたいと回答した人に、活動に参加する上で重視する項目について尋ねたところ、「興味、関心」が51.1%で最も高く、次いで「社会への貢献」（48.4%）、「適性、経験」（47.1%）、「活動地域」（33.0%）、「健康の維持」（31.7%）、「参加メンバー」（27.1%）となっている。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、聴取の対象者が異なる（※）ものの、「興味、関心」（今年度：1位、平成16年度：3位）、「社会への貢献」（今年度：2位、平成16年度：1位）が上位で共通している。

また、「適性、経験」は23ポイント、「興味、関心」は22ポイント上昇している。

※ 平成16年度調査では、社会活動への参加者に対して質問しているのに対し、本調査では、社会活動・地域活動への取組意向がある人へ質問している。

図13-3 活動における重視項目



（3）日常生活で最も長時間行っている活動

【平成16年度調査 経年比較】

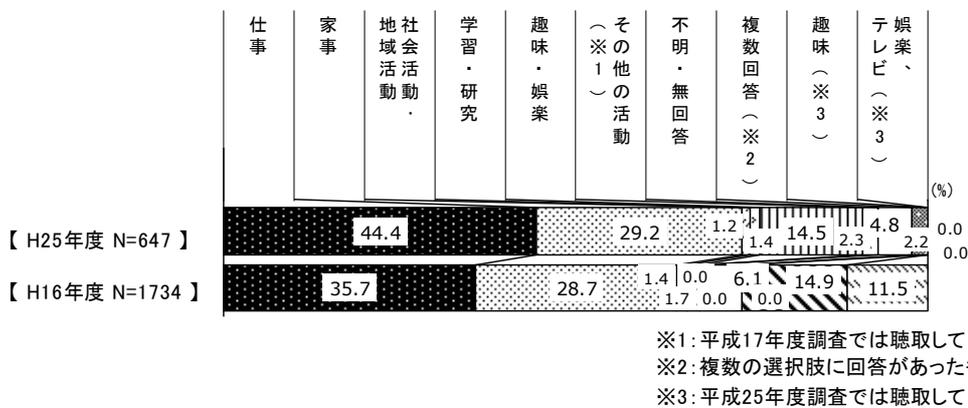
問40 次の項目の中で、あなたが日常生活で最も長時間行っている活動はどれですか。  
（○は1つ）

日常生活で最も長時間行っている活動を尋ねたところ、「仕事」が44.4%で最も高く、「家事」が29.2%で続いている。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、質問の内容がやや異なる（※）ものの、「仕事」が9ポイント上昇している。

※ 平成16年度調査では、最も力を入れている活動について質問しているのに対し、本調査では、最も長時間行っている活動について質問している。

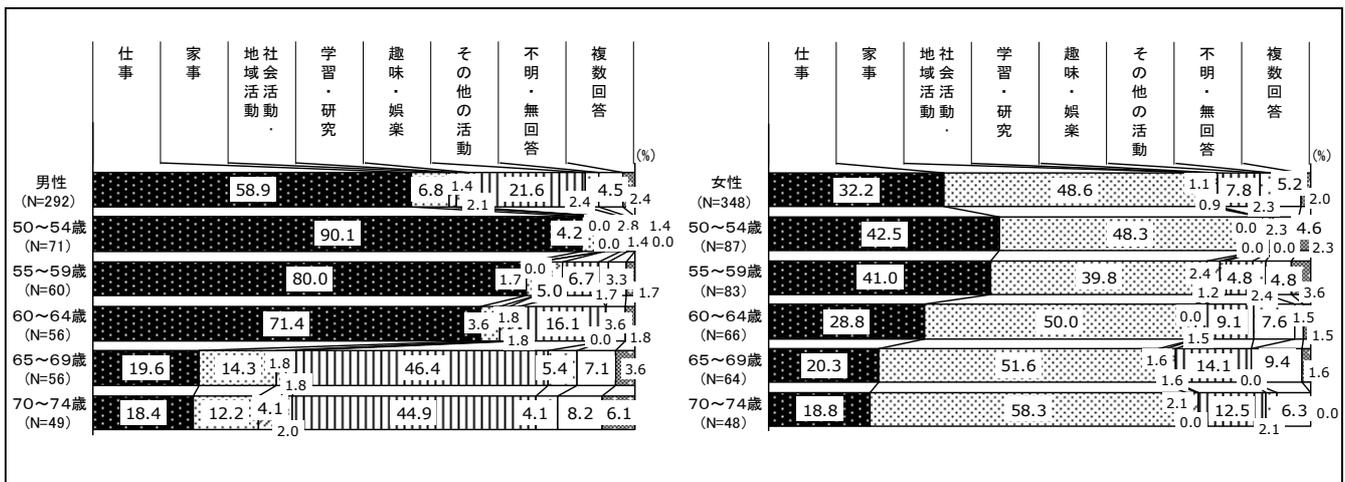
図13-4 日常生活で最も長時間行っている活動



性・年代別にみると、「仕事」では「男性」(58.9%)が「女性」(32.2%)よりも27ポイント高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。

また、「趣味・娯楽」では「男性」(21.6%)が「女性」(7.8%)よりも14ポイント高く、「男性65歳以上」は4割台半ばで他の年代よりも高くなっている。

図13-5 日常生活で最も長時間行っている活動（性・年代別）



（4）活動にかけている金額（年間）

【平成16年度調査 経年比較】

問41 あなたは、以下のA～Cの3項目の活動に、年間どのくらいのお金をかけていますか。  
（〇はそれぞれヨコに1つつ）

（A）「社会活動・地域活動」、（B）「学習・研究」、（C）「趣味・娯楽」の活動に年間どのくらいの金額を支出しているか尋ねたところ、（A）「社会活動・地域活動」では「活動していない」が38.5%で最も高くなっている。

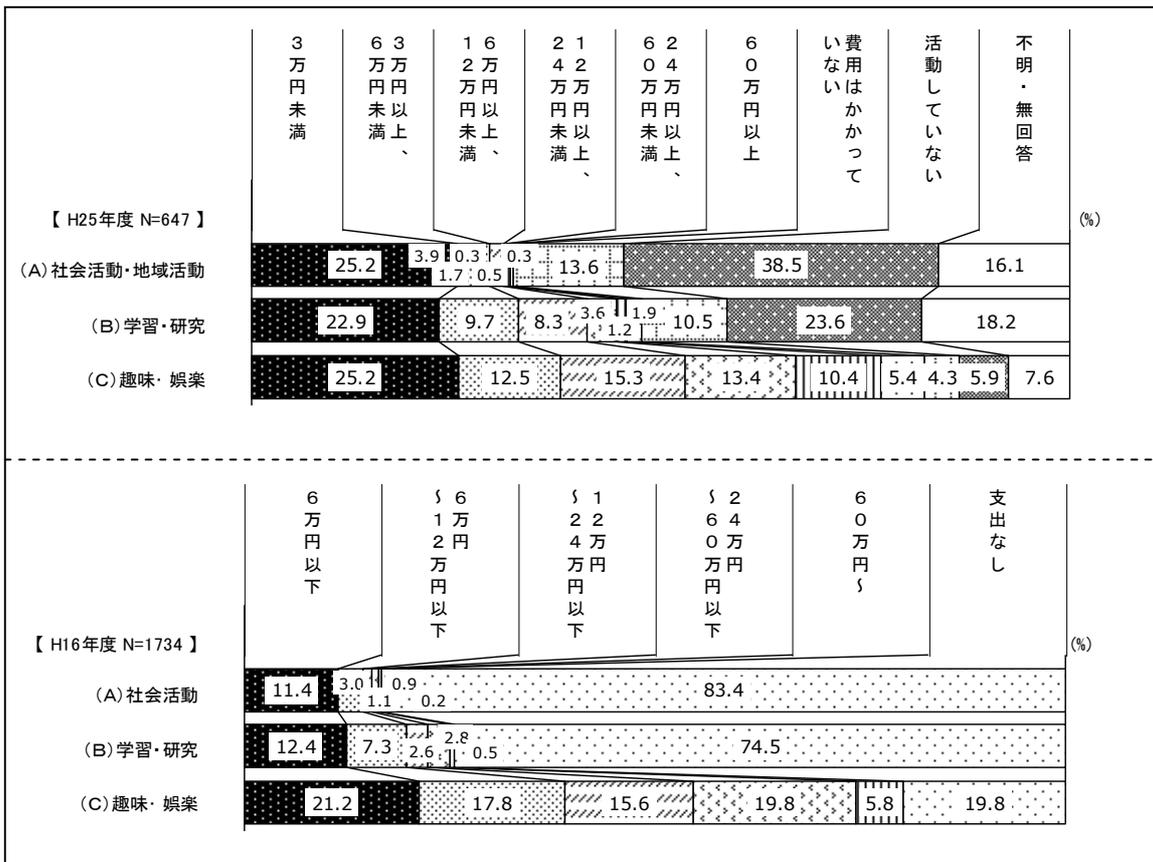
（B）「学習・研究」では「活動していない」が23.6%で最も高く、「3万円未満」が22.8%で続いている。

（C）「趣味・娯楽」では「活動していない」（5.9%）と「不明・無回答」（7.6%）を除く86.5%が何らかの趣味・娯楽活動を行っており、さらに「費用はかかっていない」（4.3%）を除いた82.2%が支出を伴う活動をしていることがわかる。

平成16年度調査（P63参照）と比較すると、聴取項目がやや異なる（※）ものの、いずれの活動も支出率が上昇している。

※ 平成16年度調査では、「社会活動」について質問しているのに対し、本調査では、「社会活動・地域活動」について質問している。

図13-6 活動にかけている金額（年間）



第3章 調査結果の詳細（50～74歳調査）

性・年代別にみると、「社会活動・地域活動」においては男女ともに「活動していない」割合が高く、「学習・研究」においては、男女ともに年代が上がるにつれて支出率が低くなる傾向がみられる。「趣味・娯楽」においては「男性50～54歳」と「女性55～59歳」で支出率が高くなっている。

図13-7 社会活動・地域活動にかけている金額（年間）（性・年代別）

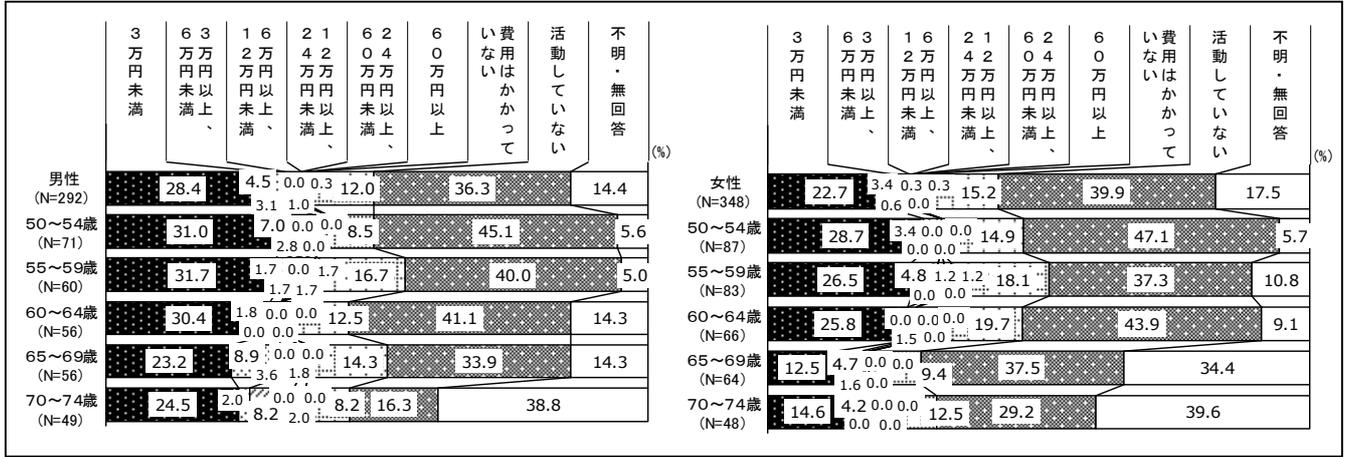


図13-8 学習・研究活動にかけている金額（年間）（性・年代別）

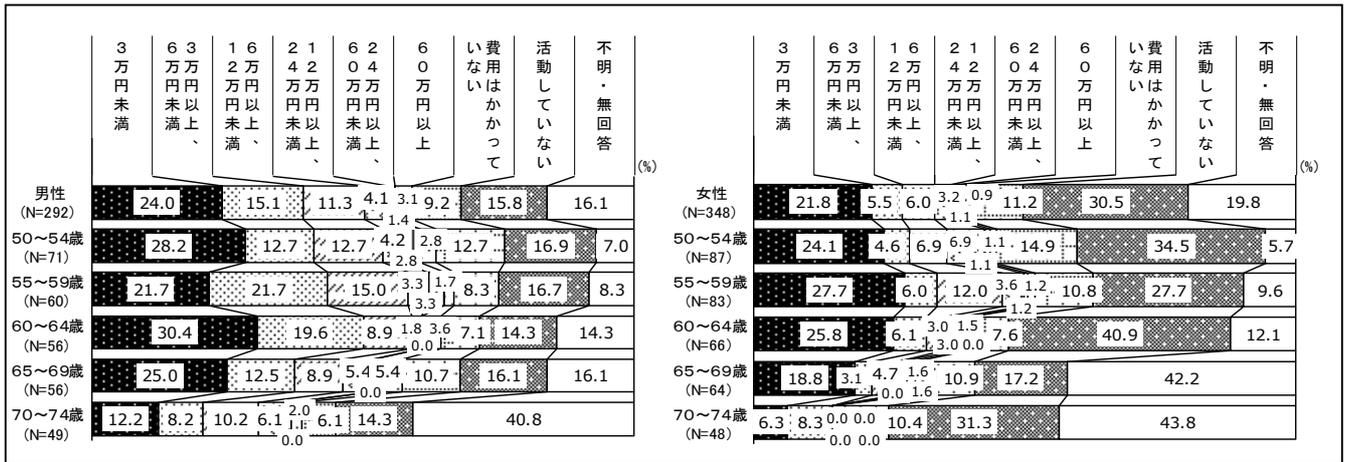
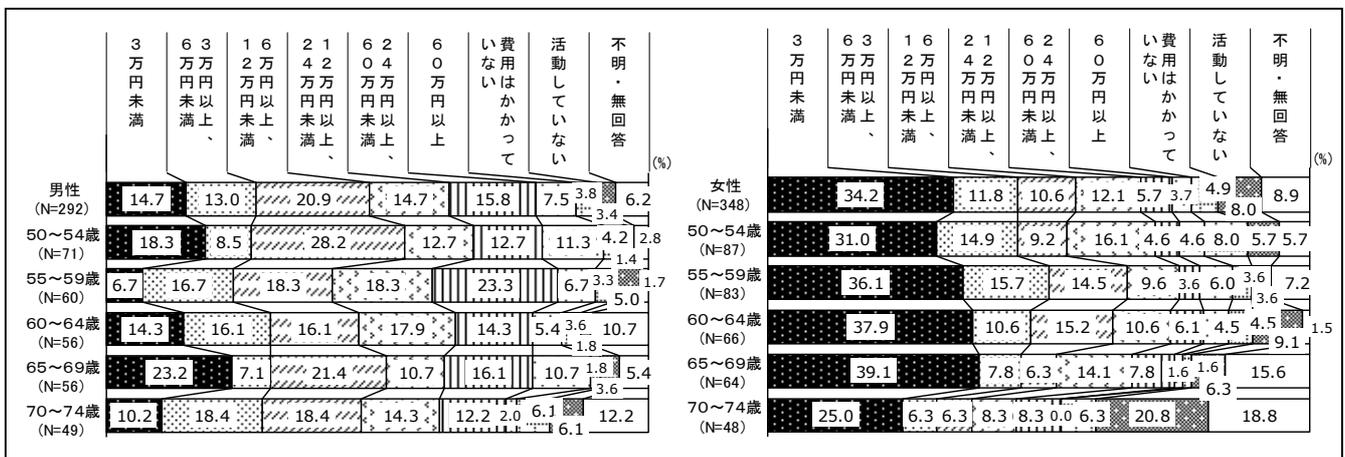


図13-9 趣味・娯楽活動にかけている金額（年間）（性・年代別）



## 9 自由記述欄の内容（50～74歳調査）

問42 地域における課題の解決に向けて、市民や事業者、行政などの多様な主体が協力・連携して取り組んでいくことについて、あなたはどのように考えますか。

## (1) 意見の内訳

分 類	意見数（のべ）
ア 趣旨に賛同する意見	9 9
イ 参加のあり方に関する意見 （ア）一部だけでなく幅広い意見や参加を求める必要性 （イ）参加しやすい環境づくりや参加しづらい層の参加促進の必要性 （ウ）その他参加のあり方について	1 5
ウ 連携・協力を担う主体の役割に関する意見 （ア）行政の役割や機能の重要性 （イ）市民や地域の役割の重要性（役割への期待） （ウ）その他連携・協力のあり方	4 6
エ 連携・協力に向けての課題に関する意見 （ア）取組についての広報・情報発信・交流が必要 （イ）それぞれの主体の目標・活動内容や役割分担・責任の明確化が必要 （ウ）市民がもっと当事者意識を持つことが必要 （エ）その他連携・協力に向けての提案など	9 6
オ その他の意見	1 0 4
50～74歳調査 計	3 6 0

## (2) 主な意見

## ア 趣旨に賛同する意見

- ・それぞれの立場から意見が出ることは良いと思う。
- ・連携して取り組んでいけることが理想であり期待している。
- ・市民だけでは解決できない課題も、事業者・行政と協力すれば解決できると思う。

## イ 参加のあり方

## （ア）一部だけでなく幅広い意見や参加を求める必要性

- ・できる限り多くの人からの意見を聞いて、かたよりなく取り組んでほしい。
- ・強制されるのではなく、自由な立場で市民が関わられるようにしてほしい。

## （イ）参加しやすい環境づくりや参加しづらい層の参加促進の必要性

- ・若い人たちに多く参加してもらえそうな仕組みを、連携してつくっていききたい。
- ・市民と行政が、お互いに信頼して、語り合える土壌を構築することが大切。
- ・転入者にとっては、長く川崎に住む人に対しては発言しづらい面がある。
- ・退職等で時間ができたが、今まで地域の行事に参加したことがなく、参加しづらい。

**（ウ）その他参加のあり方について**

- ・これから参加したいという人たちのきっかけづくりをしてほしい。

**ウ 連携・協力を担う主体の役割**

**（ア）行政の役割や機能の重要性**

- ・行政がもっと積極的に取り組んでほしい。
- ・声かけ程度で良いので、行政の仲介があると活動しやすい。
- ・行政が市民の意見を聞いた上で主導権を持ち、リーダーシップを発揮して行動に移すべき。
- ・市民が気軽に行政に相談できる仕組みをつくってほしい。

**（イ）市民や地域の役割の重要性（役割への期待）**

- ・家族を核として、自らが地域のコミュニティに関わるべき。
- ・地域が中心となって、市民の力・目線で取り組むことが必要。
- ・少子高齢化や防災など、従来の価値感・仕組みでは対応できないことが増えてきている。実際に住む人たちが知恵を絞り、協力することが欠かせない。
- ・身近な町内会・自治会活動を通じて、お互いに助け合い、無理なく交流ができるようにする必要はある。

**（ウ）その他連携・協力のあり方**

- ・地域課題に対して、市民が自らの問題として積極的に取り組み、それを行政が支援するのが理想。
- ・行政が市民の意見を聞いた上で主導権を持ち、リーダーシップを発揮してほしい。

**エ 連携・協力に向けての課題**

**（ア）取組についての広報・情報発信・交流が必要**

- ・どのようなニーズや課題があるのか、一般的にはあまり知られていない。
- ・課題の内容や取組経過など、情報提供をしっかりと行ってほしい。
- ・気軽に情報を得たり、応募したりできるような仕組みを構築してほしい。

**（イ）それぞれの主体の目標・活動内容や役割分担・責任の明確化が必要**

- ・多様な団体や人々に関わるためには、それぞれの役割分担や責任を明確にして、主体と主体をつなげていく人材を育てていく必要がある。
- ・時間がかかり過ぎることがないように、最終的な責任を誰が負うのか明確にすべき。
- ・解決すべき課題に対して、それぞれ何ができるかを検討すべき。

**（ウ）市民がもっと当事者意識を持つことが必要**

- ・地域を活性化していくためには、市民一人ひとりの意識が大事。
- ・行政主体になりがちだが、もう少し市民自体が積極的になるべき。
- ・問題や課題を自分のこととして受け止め、積極的に協力する姿勢が大切。

**(エ) その他連携・協力に向けての提案など**

- ・最も気軽に参加できる地域のお祭りや盆踊りをきっかけに、地域のコミュニティづくりを進めていくのが良い。
- ・ボランティアに参加した場合に、地域で使えるクーポン等がもらえたらうれしい。
- ・さまざまな主体が連携していくためにインターネットやメディアを活用すべき。
- ・埋もれている地域の人材を活用することが好ましい。

**オ その他の意見**

- ・課題が不明確であるとの意見
- ・連携・協力は難しい、参加できない、きっかけがないとの意見
- ・機会があれば参加したい、協力したいとの意見
- ・その他感想やアンケートの内容等に関する意見 など

